

出来形管理基準

平成 2 9 年 2 月



ひと・まち・くらしをネットワーク

首都高速道路株式会社

ま え が き

首都高速道路株式会社（以下当社と言う）で発注した工事目的物を、各種仕様書および設計図書に、定められた規格を満足させる手段とするために、当社では、施工管理に関する規程を土木工事共通仕様書、土木材料仕様書、工事監督の手引き、及び各種設計・施工基準等により出来形の管理基準並びに品質の規格値を定めて品質の向上を図ってきた。

ことさら、工事目的物の質は、施工過程における出来形管理並びに品質管理の善し悪しに依って大きく影響されるものであるため、当「出来形管理基準」を新たに整備し制定した。

尚、今般当社にない出来形の管理基準は、国土交通省「土木工事必携」平成15年度版並びに東京都建設局「土木工事施工管理基準」平成15年5月を参考に追加した。

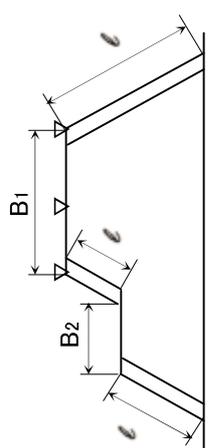
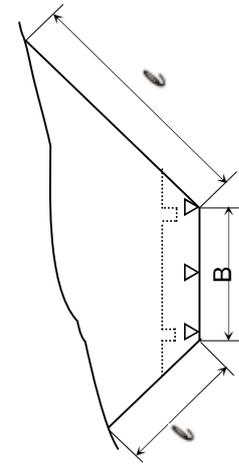
さらに、従前から当社にあった出来形の管理基準を取りまとめ整理したものである。

目

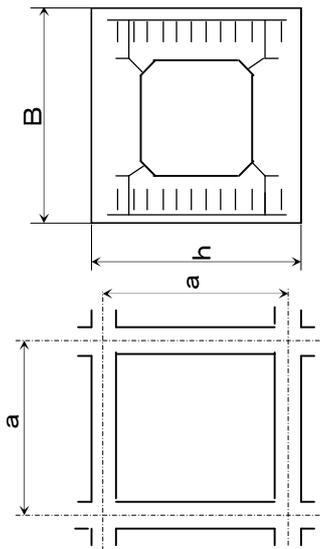
次

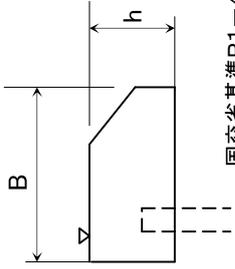
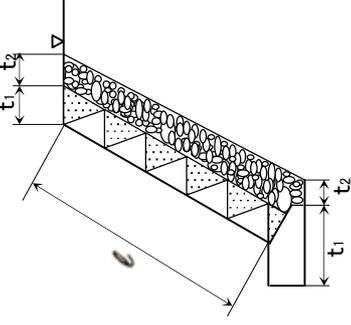
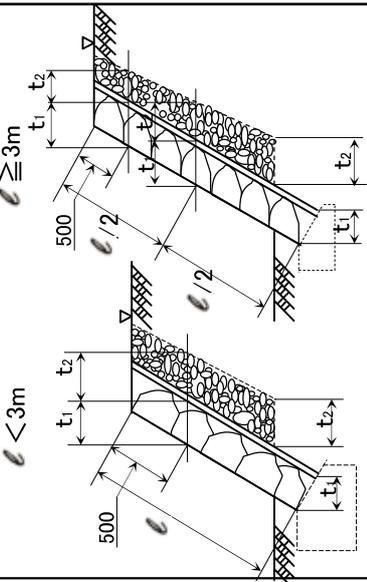
出来形管理基準

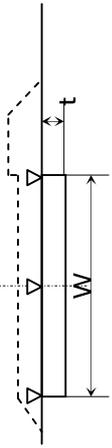
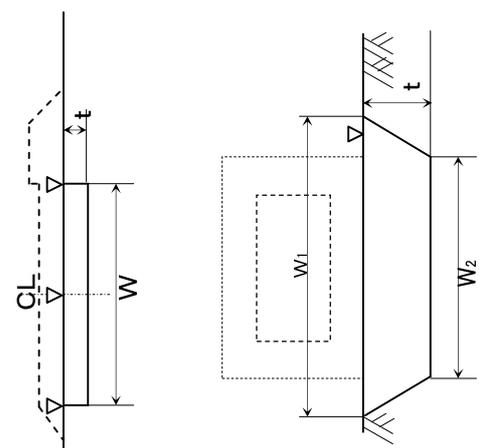
1	道路土工	1-1
2	法面工	2-1～2-2
3	地盤改良工	3-1～3-2
4	仮設工	4-1
5	基礎工	5-1～5-2
6	コンクリート構造物工	6-1～6-6
7	床版工	7-1
8	鋼構造物工	8-1～8-8
9	上部工	9-1～9-3
10	舗装工	10-1～10-4

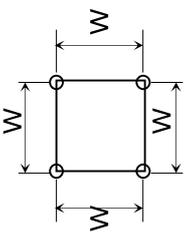
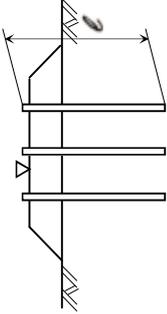
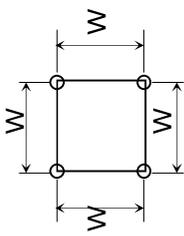
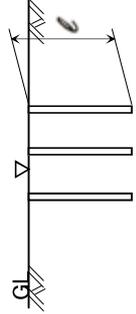
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
					工種
道路	盛土工	基準高さ	0~-50	基準高は、道路中心及び端部で測定する 測定間隔は、直線部及び曲線半径300m 以上は20m間隔 曲線半径300m以下は、10m間隔 地形の複雑な箇所は、5m間隔に測定 する 延長40m以下のものは、1施工に つき2箇所測定する。また断面の変化点は、 すべて測定する (国交省土木工事必携1-82)	
		幅 B1 B2	0~+100		
		法長 $l < 5m$	-100		
		法長 $l \geq 5m$	$l \times (-2\%)$		
土工	切土工 (掘削工)	基準高さ	-50		
		幅 B	0~+100		
		法長 $l < 5m$	-200		
		法長 $l \geq 5m$	$l \times (-4\%)$		

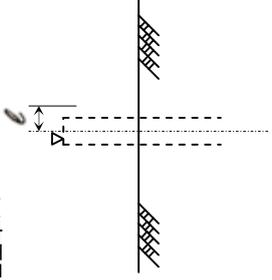
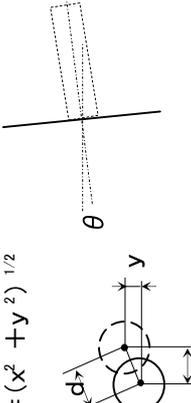
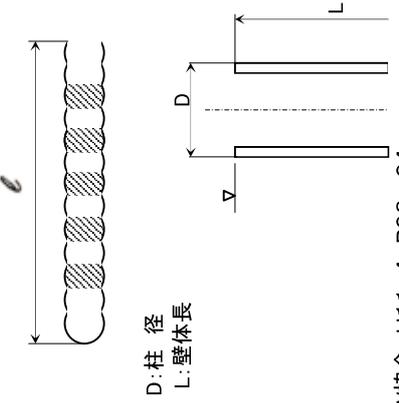
工事監督の手引きP2-20(同様数値)
 工事監督の手引きP162(丁張標準設置間隔引用)

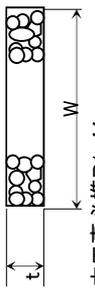
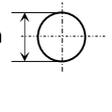
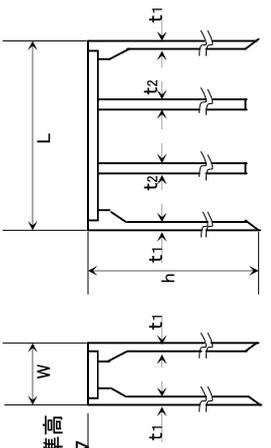
測定対象		規格値 (単位:mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
現場打法砕工	法 長 $\ell < 10m$	-100	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所	 <p>曲線部は設計図書による 国交省土木工事必携P1-26</p>
	法 長 $\ell \geq 10m$	-200		
	吹付砕中心間隔 a	±100	砕延長100mにつき1箇所、砕延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所	
	高さ h	-30		
	幅 B	-30		
	延長 L	-200	1施工箇所毎	
プレキャスト法砕工	法 長 $\ell < 10m$	-100	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所	<p>国交省土木工事必携P1-26 都施工管理基準</p>
	法 長 $\ell \geq 10m$	-200		
	延長 L	-200	1施工箇所毎	
工種 吹付砕 客張筋 芝松 市植 植種 植人	切土法長 $\ell < 5m$	-200	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所	
	切土法長 $\ell \geq 5m$	法長の-4%		
	盛土法長 $\ell < 5m$	-100		
	盛土法長 $\ell \geq 5m$	法長の-2%		
	延長 L	-200		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
コンクリート基礎工	基準高	± 20	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所(国交省P1-45)	 国交省基準P1-45
	幅	-5~+10		
	高さ	-20~+30		
	延長	-200		
コンクリート ブロック積工 ブロック張工	基準高	± 20	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下 厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定 国交省工事必携P1-50	 都施工管理基準 国交省基準P1-50
	法長	± 50		
	厚さ	± 100		
	延長	± 30		
	厚さ	-30		
	厚さ	-30		
石積(張)工	基準高	± 20	改正(案)、公園、都、国交省、阪公の比較差より	 都施工管理基準P27
	法長	± 50		
	厚さ	± 100		
	延長	± 30		
	厚さ	± 30		
	厚さ	± 30		

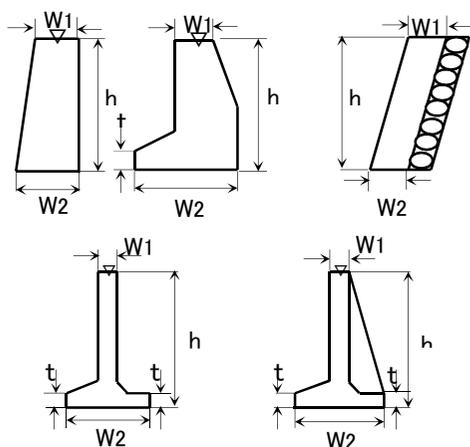
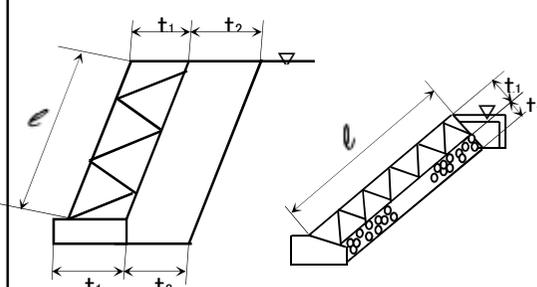
測 定 対 象		規 格 値 (単 位 mm)	管 理 基 準	摘 要
表層固結工 (石灰、セメント等)	基準高さ	±50	施工延長40mにつき1箇所の割で測定 基準高及び施工厚さは、中心線及び端部で測定する	都施工管理基準 国交省土木工事必携P1-72 
	幅 W	-100		
	施工厚さ t	-50		
	延長 L	-200		
置換工法	基準高さ	±50	施工延長40mにつき1箇所 施工延長40m以下については1施工箇所につき2箇所測定する 厚さは、中心線及び端部で測定する	都施工管理基準 国交省土木工事必携P1-72 
	施工厚さ t	-50		
	幅 W1 W2	-100		
	延長 L	-200		
地 盤 改 良 工 (1)				

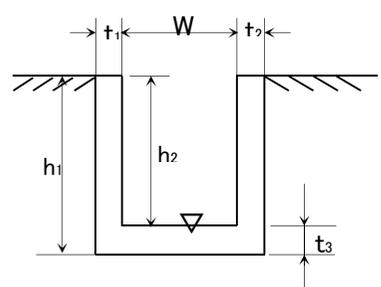
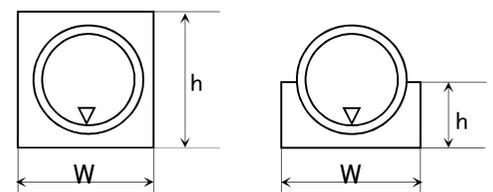
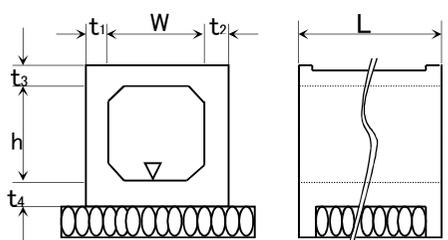
測定対象		規格値 (単位 mm)	管理基準	摘要
サンドドレーン工法 ベーパードレーン工法 サンドコンパクション工法	位置・間隔 W	± 100	位置・間隔については、100本に1箇所 100本以下は2箇所測定	都施工管理基準 国交省土木工事必携P1-76   ※ 余長は適用除外
	打込長さ	設計値以上	1箇所につき4本測定	
	砂の投入量	-----	打ち込み長さ、砂の投入量は、全本数測定する	
深層混合処理工法	基準高 ▽	- 50		都施工管理基準 国交省土木工事必携P1-76  
	位置・間隔 W	D/4以内	100本に1箇所 100本以上は、2箇所測定する 1箇所につき4本測定する	
	杭径 D	設計値以上		
	深度	設計値以上	全数について測定する	

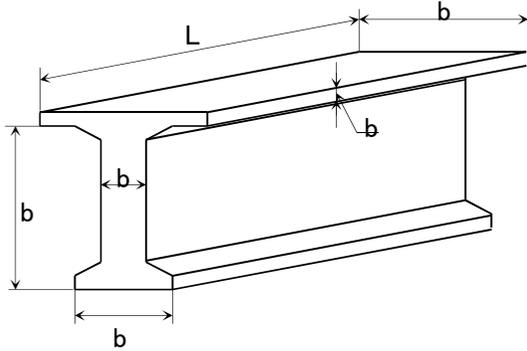
測定対象		規格値 (単位:mm)	管理基準	摘要
共通事項 板工 鋼量鋼板工 管失板工 設H鋼杭工	延長(各工事共通)	各工事による	各ブロック毎に測定する	<p>延長の規格値はブロック毎に満足する 総延長もこの規格値を満足すること</p> <p>都施工管理基準P7</p> 
	基準高	± 100	基準高は施工延長40mごとに1箇所 40m以下のものは1施工箇所につき2箇所測定	
	杭長	設計値以上		
	芯からのずれ	100	芯からのずれは施工延長20mごとに1箇所 20m以下のものは1施工箇所につき2箇所以上測定	
仮設工 グラウンドアンカー工	削孔深さ	設計深さ以上	全数	 <p>$d = (x^2 + y^2)^{1/2}$</p>
	配置誤差	100		
	せん孔方向	±2.5度		
仮設工 地中連続壁土留工 (柱列式)	基準高	± 50	基準高は施工延長40mごとに1箇所 40m以下のものは1施工箇所につき2箇所測定	 <p>D: 柱径 L: 壁体長</p> <p>SMW協会 H11. 4 P93-94</p>
	連壁の長さ	- 50		
	芯からのずれ	D/4以内	芯からのずれは施工延長20mごとに1箇所 20m以下のものは1施工箇所につき2箇所以上	
	壁体長	設計値以上	壁体長Lは、設計値が確保されていることを、掘削深、H鋼等の出来形、コンクリート打設量等により確認する	
	施工精度	一般地盤 26以浅 1/200 Φ550 26以深 1/150 Φ850 23以浅 1/250 23以深 1/200		

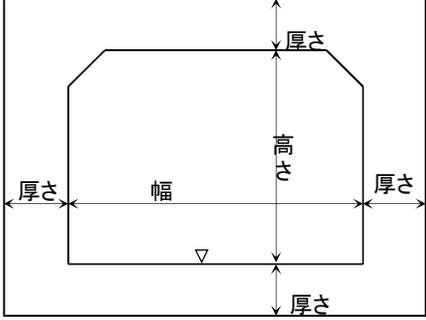
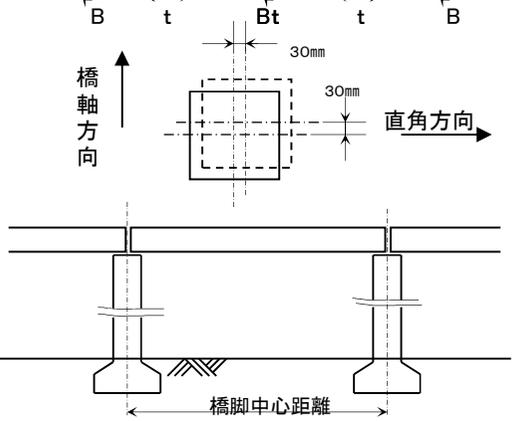
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
栗石基礎 砕石基礎	幅 W(m)	設計値以上	施工延長40mにつき1箇所 施工延長が40m以下は2箇所測定する	 <p>国交省土木工事必携P1-44</p>
	厚さ t(cm)	- 30		
既製杭工	基準高 ▽	± 50	全数について杭中心で測定する 測定結果は、一覧表にまとめ整理する	<p>D:杭径</p>  $d = (x^2 + y^2)^{1/2}$
	偏心量 d	D/4かつ100以内		
	杭長	設計値以上		
	基準高 ▽	± 50		
場所打杭工	偏心量 d	D/4かつ100以内	全数について杭中心で測定する 測定結果は、一覧表にまとめ整理する	<p>国交省土木工事必携P1-47</p>
	杭長	設計値以上		
	杭径 D	設計径(公称径)以上		
	基準高 ▽	± 100		
オケーソン基礎工	ケーソン長さ	- 50	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については 各打設ロットごとに測定する	<p>国交省土木工事必携P1-49</p> $d = (x^2 + y^2)^{1/2}$  <p>基準高 ▽</p>
	ケーソン高さ	- 100		
	ケーソン幅	- 50		
	ケーソン壁厚	- 20		
	偏心量 d	±150		
	基礎工 (1)			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
ニューマチック ケーソン基礎工	基準高	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については 各打設ロットごとに測定する 国交省土木工事必携PI-48-49	
	ケーソン長さ	- 50		
	ケーソン高さ	- 100		
	ケーソン幅	- 50		
	ケーソン壁厚	- 20		
	偏心量	150		
	基準高	± 100		
偏心量	300			
根入長	設計値以上			
地中連続壁土留工 (壁式)	基準高	± 50	基準高は施工延長40mごとに1箇所 40m以下のものは1施工箇所につき2箇所測定 芯からのずれは施工延長20mごとに1箇所 20m以下のものは1施工箇所につき2箇所測定 壁体長Lは、設計値が確保されていることを、掘 削深、鉄筋カゴ、H鋼等の出来形、コンクリート打 設量等により確認する	
	連壁の長さ	- 50		
	芯からのずれ 平面ずれ±50以内にする	平面ずれ±50以内にする		
	壁体長	設計値以上		
	偏心 心(鉛直方向)	1/500以内かつ連壁中心と エレメント中心との離れ ±50以内		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート 構造物(1)	共通	鉄筋のかぶり	-10~+20 かつ最小かぶり以上		
	現場打コンクリート 擁壁工	基準高さ ▽	±20	目地部ごとに測定する(出来形図表による) W1,W2,h,tに関しては妻型枠脱型時に必ず測定しておく事	
		幅 W1, W2	-5~+10		
		高さ h	-20~+30		
		厚さ t	-5~+20		
		延長 L L ≤ 30m 30m < L ≤ 100m 100m < L	±30 ±L/1000 ±100		
	ブロック積 ブロック張 石積・石張	基準高さ ▽	±20	施工延長20mに付き1箇所とする	
		厚さ t1 t2	±30		
		のり長 ℓ < 3m ℓ ≥ 3m	±50 ±100		
		延長 L L ≤ 30m 30m < L ≤ 100m 100m < L	±30 ±L/1000 ±100		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準 街路築造工事は、最終管理者基準に基づき構築する。 尚、当資料は、高速道路工事に適用する。	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート構造物(2)	側溝	基準高	±10	目地間隔が30m未満のときの測定箇所は、柵の間隔ごと、目地間隔が30m以上のときの測定箇所は、施工延長30mにつき1箇所とする	 <p>都施工管理基準 国交省工事必携P1-122では-200</p>
		幅 W	±10		
		高さ h ₁ h ₂	±10		
		厚さ t ₁ t ₂ t ₃	±10		
		長さ L	-100		
	管渠	基準高	±10	目地間隔が30m未満のときの測定箇所は、柵の間隔ごと、目地間隔が30m以上のときの測定箇所は、施工延長20mにつき1箇所とする	 <p>都施工管理基準 国交省工事必携P1-122では-200</p>
		幅 W	±10		
		高さ h	±10		
		長さ L	-100		
	函渠	基準高	±10	目地間隔が30m未満のときの測定箇所は、柵等の間隔ごと、目地間隔が30m以上のときの測定箇所は、施工延長20mにつき1箇所とする	 <p>都施工管理基準 国交省工事必携P1-122では-200</p>
		厚さ t ₁ t ₂ t ₃ t ₄	±10		
		幅(内のり) W	±10		
高さ h ₁		±10			
長さ L		-100			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート 構造物(3)	長さ L	$L \leq 13m \quad \pm 10$ $13m < L \leq 21m$ $\pm L/1000$ $21m < L \quad \pm 30$		 <p>The diagram shows a perspective view of a concrete beam. The length is labeled as 'L' and the width as 'b'. The beam is supported by a base, and the width 'b' is shown at both the top and bottom surfaces.</p>
	断面寸法 b	$b \leq 1m \quad \pm 5$ $1m < b \quad \pm 10$		
	横方向のたわみ	$(1.5L-6)mm \quad L=m$ ただし、 10mmを超えてはならない		
	主桁間隔	± 20		
掘割構造物及び 半地下擁壁構造物	防水マット及び防水 シート 継手のラップ幅(W)	$W \geq 100$		

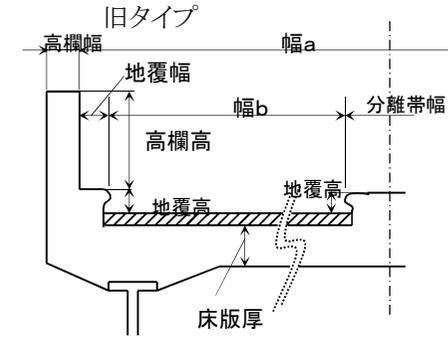
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート 構造物(4)	トンネル	基準高 ∇	± 20	施工ブロック端部毎に測定する クラック展開図、打撃試験、鉄筋カブリ探査試験については出来形図による	
		幅	$0 \sim +30$		
		高さ	$0 \sim +30$		
		躯体の厚さ	± 10		
		長さ L	-100		
	橋脚	変位	橋軸方向、直角方向とも ± 30		
		橋脚中心距離	± 30 ただし、支承が支障なく 設置できる場合に限る		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート 構造物(5)	フーチング 及び橋脚	梁の長さ	-10~+30		
		梁の高さ ①②	-10~+20		
		梁の幅	±10		
		柱の幅	±10		
		基礎の高さ ①②	-10~+30		
		基礎の幅	-10~+30		
		柱の間隔(門形の場合)	±20		
		基準高(梁天端)	±20		
		基準高(基礎)	±20		
		基準高(沓座)	-20		
沓座偏心量	鋼製支承 ± 5 ゴム支承 ± 10	沓座偏心量は出来形図表に準ずる			
鉛直度(参考値)					
h ≤ 10m	±10				
h ≥ 10m	h/1000				

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート 構造物(6)	橋台	基準高	±20	
		橋台の天端長	-10~+30	
		橋台の敷長	-10~+30	
		橋台の天端幅 a_1 (橋軸方向)	-5~+10	
		橋台の天端幅 a_2 (橋軸方向)	-5~+10	
		橋台の敷幅 a_3 (橋軸方向)	±10	
		橋台の高さ h_1	±10	
		胸壁の高さ h_2	±10	
		控壁の厚さ t	-5~+20	
		胸壁間距離 L (支間方向の中心距離)	±30 ただし、支承が支障なく 設置できる場合に限る	

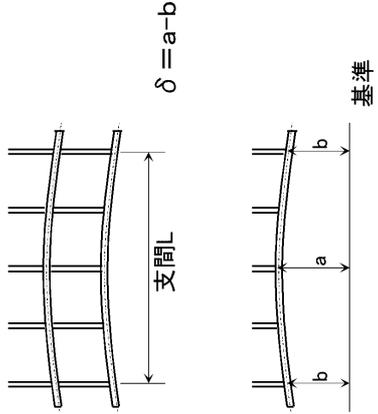
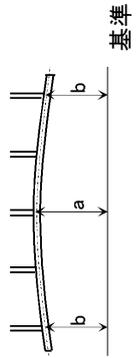
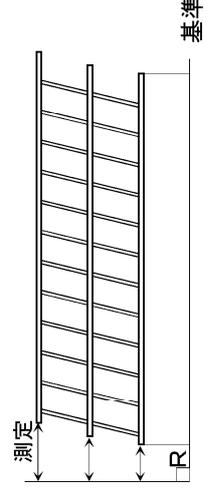
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
床版工(1)	床版	鉄筋のかぶり	設計かぶり以上	1径間あたり両端と中央部の3点の主桁間を 形枠・配筋後に測定	<p>新タイプ</p>
		鉄筋の有効高さ	±10		
		床版の厚さ	+10		
		平坦性	±10		
	高欄	鉄筋のかぶり	±5 かつ最小かぶり以上	1径間あたり両端と中央部の3箇所測定	
		高欄の幅	+10		
		高欄の高さ	±10		
		地覆の幅	+10		
		地覆の高さ	-10		
		建築限界			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
床版工(2)	幅員	幅 a	+30	床版工事及び舗装工事の出来形図表による
		幅 b	+20	但し高欄外側が他の建築限界、又は用地を侵す場合は'±0とする

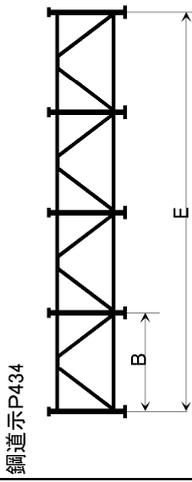
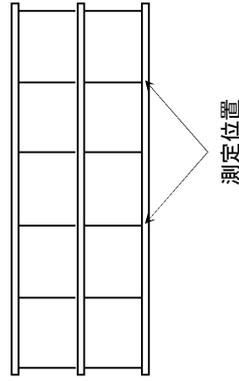


測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物 (1) 仮組時	支間及び全長	$\pm(10+L/10)$ $L=m$		国交省土木工事必携P1-37
	桁高 $H \leq 1m$	± 2		
	$1m < H \leq 2m$	± 3		
	$2m < H$	1m又はその端数を増すごとに $\pm 3mm$ に1mmを加える		(ヒンジ部)
	平面对角線長 $L \leq 10m$	± 5		
$10m < L \leq 20m$	± 10			
$20m < L$	$\pm [10 + (L-20)/10]$ $L=m$			

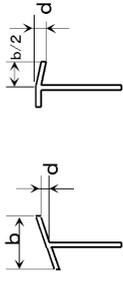
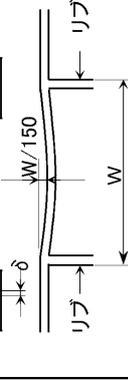
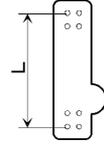
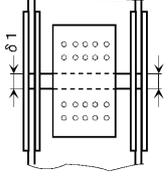
※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
					工種
鋼構造物 (2) 仮組時	桁	桁の通り $L \leq 30m$			
		$30m < L \leq 50m$			
		$50m < L \leq 70m$			
		$L > 70m$			
	支承線の通り				

※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要		
					工種	測定項目
鋼構造物 (3) 仮組時	桁	主桁間隔	$\delta = \pm [4 + (B - 2) \times 0.5]$ $B \leq 2 \quad \pm 4$ $B > 2 \quad \pm (3 + B / 2)$			
		多主桁 における 両耳桁間隔(E) E ≤ 10m				±5
		10m < E ≤ 20m				±10
		20m < E				±[10 + (E - 20) / 10] E = m
		製作キャンバー L ≤ 20m				±5
		20m < L ≤ 40m	-5 ~ +10			
		40m < L ≤ 80m	-5 ~ +15			
		80m < L ≤ 200m	-5 ~ +25			

※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位:mm)	管理基準	摘要
鋼構造物 (4) 仮組時	桁及びラーメン橋脚	フランジ幅 $W < 1m$	± 2	 <p>ただし、現場継手部は、相対誤差を規格値の1/2とし、3mmを超えてはならない。</p>
		$1m \leq W < 2m$	± 3	
		$2m \leq W$	1m又はその端数を増す毎に±3mmに±1mmを加える	
	フランジ直角度	$\frac{d}{b/2} \leq 1/100$		
	桁鉛直度 (桁高h)	$3+(h/1,000)$		
	桁の平面度ウェーブに対して (ウェーブ高H)	$H/250$ $H = mm$		
	桁の平面度フランジに対して (フランジ幅W)	$W/150$ $W = mm$		
	部材長 $L \leq 10m$	± 3		
	$L > 10m$	± 4		
	現場継手部の隙間	3mm		 <p>銅道示P435 δ: 間における $\delta 1 \cdot \delta 2$ のうち大きいもの</p>

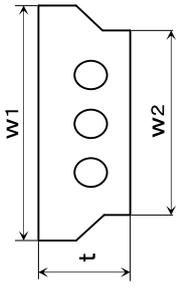
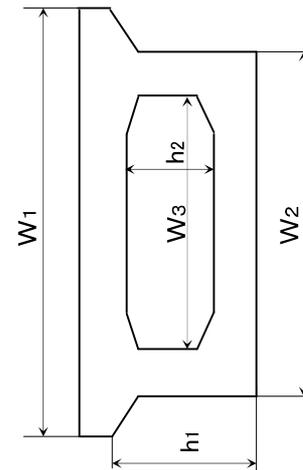
※架設時は道路橋示方書に準ずる

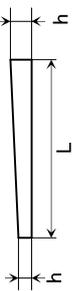
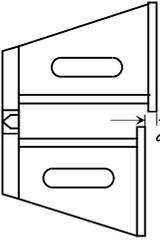
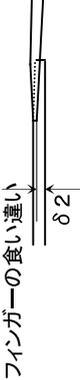
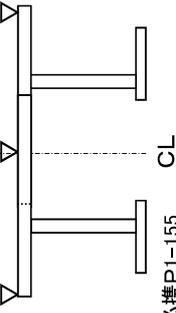
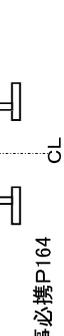
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼構造物 (5)	ラーメン橋脚	柱の中心間隔長さ (イ) $L \leq 10m$	鋼造示P435		
		$10m < L \leq 20m$			± 5
		$20m < L$			± 10
	(ロ) 同上	(ロ) 同上			
	略図に示した 各々の値をLとする。	$\pm 10 + (L - 20 / 10)$			
	圧縮材の曲り	$\delta \leq L / 1,000$			
	鋼管の真円度	半径に対して0.5%			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物 (6)	ベースプレートの水平度	① $\delta \leq b/200$		
	ベースプレートの寸法	② $\delta = \pm 2$		
		③ $0 < \delta < +5$		
ラーメン橋脚	(イ) 梁のキャンバー及び柱の曲り	$\delta \leq L/1,000$		
	鉛直度	$h \leq 10m$ 10 (参考値) $10m < h$ $h/1,000$		
	(ロ) δ	$\delta \leq L/1,000$		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
ラーメン橋脚	橋脚と ベースプレートの鉛直度	$\frac{d}{b/2} \leq 1/500$		
	ボルト穴の垂直度	$\delta = 1/500$		
アンカーフレーム	上面の水平度(イ)	$\delta = 1/500$		
	鉛直度(ロ)	$\delta = 1/500$		
	高さ(ハ)	$\delta = \pm 5$		
	ボルト位置(ニ)	$\delta = \pm 2$		
	ボルト径(ホ)	$0 \leq \delta \leq +5$		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
支承の寸法	仕上げ寸法	$\delta = \pm 0.5$		
	組立高さ	$\delta = \pm 3$		
鋼 構 造 物 (8)				

測定対象		規格値 (単位:mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
上部工(1)	PCホロースラブ製作工	基準高 ∇	桁全数について測定 基準高は、1径間当りの2箇所(支点付近)で 1箇所当りの両端と中央部の3点、幅及び厚さは 1径間当り両端と中央部の3箇所 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後 に測定	
	PC版桁製作工	幅 W1 W2		
		厚さ t		
		桁長 L スパン長		
		$L < 15 \dots \pm 10$ $L \geq 15 \dots \pm (L-5)$ かつ -30以内 L:スパン長		
		0.8L		
橋梁	PC箱桁製作工	基準高さ	桁全数について測定 基準高は、1径間当りの2箇所(支点付近)で 1箇所当りの両端と中央部の3点、幅及び厚さは 1径間当り両端と中央部の3箇所 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後 に測定	
		幅(上) W1		
		幅(下) W2		
		内空幅 W3		
	高さ h1	± 5		
	内空高さ h2	+10~-5		
	桁長 L スパン長	$L < 15 \dots \pm 10$ $L \geq 15 \dots \pm (L-5)$ かつ -30以内 L:スパン長		
		0.8L		

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
伸縮継手 (仮組時精度)	長さ $L \leq 10m$	-5 ~ +10	測定箇所 伸縮継手については、一般図にある 主要寸法を測定する 国交省工事必携P1-390 都施工管理基準P50 鋼道示P435	鋼伸縮継手の場合(例:フィンガージョイント等)  伸縮装置の据付高さの  フィンガーの食い違い 
	長さ $L > 10m$	-5 ~ +(5+L/2)		
	高さ h h'	$\delta = \pm 0.5$		
	組合せる伸縮装置の長さの差 $\delta 1$	4		
	フィンガーの食い違い $\delta 2$	2		
伸縮継手 (ゴム)	据付高さ	舗装面に対し0~-2	両端及び中央部付近を測定 国交省工事必携P1-164,152	
	表面の凸凹	3		
	仕上げ高さ	舗装面に対し0~-2		
伸縮継手 (鋼製)	高さ	据付高さ	高さ 高さは車道端部、中央部各3点 計9点	
		車線方向各点誤差の 相対差		
	表面の凸凹	3		
	縦方向間隔	± 2		
	横方向間隔	± 5		
	歯型板面に歯咬み合い部の高 低差	2	縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点	
	仕上げ高さ	舗装面に対し0~-2		

測 定		対 象		規 格 値 (単位mm)	管 理 基 準	摘 要
工 種	測 定 項 目	測 定 項 目	測 定 項 目			
支 承 工 (鋼 橋 上 部 工 事)	鋼製支承	据付高さ	± 5	支承全数を測定する B:支承中心間隔(m)		
		可動支承の橋軸方向のずれ	± 10			
		支承中心間隔 (橋軸直角方向)	$\pm 4 + 0.5 \times (B-2)$			
		水下 平沓 度の	1/100			
		橋軸方向	1/100			
		橋軸直角方向	± 5			
		同一支承線上の可動支承の ずれの相対誤差	± 5			
支 承 工 (R C 橋 上 部 工 事)	ゴム支承	据付高さ	± 5	支承全数を測定する 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、 及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に 肌すきが無いことを確認する 支承便覧P266.268		
		支承中心間隔	$\pm 10 \quad 4 + 0.5 (B-2)$			
		水下 平沓 度の	1/300 以下			
		橋軸方向	± 5			
		橋軸直角方向	± 10			
		据付高さ	± 5			
支 承 工 (鋼 橋 上 部 工 事)	鋼製支承	可動支承の橋軸方向のずれ	± 10	支承全数を測定する		
		支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± 5			
		水下 平沓 度の	1/100			
		橋軸方向	1/100			
		橋軸直角方向	5			
		同一支承線上の可動支承の ずれの相対誤差	± 5			
支 承 工 (R C 橋 上 部 工 事)	ゴム支承	据付高さ	± 5	支承全数を測定する 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、 及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に 肌すきが無いことを確認する		
		支承中心間隔	± 5			
		水下 平沓 度の	1/300 以下			
		橋軸方向	± 5			
		橋軸直角方向	± 5			

工 種	測 定 対 象	規 格 値 (単位mm)				管 理 基 準	摘 要	
		測 定 項 目	個々の測定値	10個の測定値の平均 X10	X6			X3
下 層 路 盤 (クラッシュラン)	基 準 高	±40 以内				基準高・幅及び砕石路盤層 セメント処理混合物層の厚さは、 延長40mごとに1箇所の割合で測定 (原則として測点で測定)する 舗装要綱P161	厚さの規格値は各層に対するものである ので、舗装の総厚の平均値は、設計値を満足するように管理する	
	幅	-50 以上						
	厚	-45 以上・ 管理データ による場合	-15 以上					
	締 固 め 度	93%以上	95%以上	96%以上	97%以上			
上 層 路 盤 粒度調整砕石 道路用スラグ	幅	-50 以上				舗装要綱P161		
	厚	-25 以上	- 8 以上					
	締 固 め 度	93%以上	95%以上	95.5% 以上	96.5%以上・			
	厚	-50 以上						
上 層 路 盤 アスファルト処理 混合物	締 固 め 度	-15 以上	- 5 以上			粒度・アスファルト量の規格値 は、配合設計の値に対するもの である 舗装設計施工基準 舗装設計施工基準P57 舗装要綱P161.165	「舗装設計施工基準」による アスファルト混合物層、アスファルト 処理混合物層の厚さ及び締固め度 は1,000㎡に1組 (3個以上/1組)	
	厚	管理データ による場合	93%以上	95%以上	95.5% 以上			96.5%以上
	2.36 75μm	粒度 (%)	±12 以内	±10 以内	±9.5 以内			±8.5 以内
		アスファルト量 (%)	± 5 以内	± 4 以内	± 4 以内			± 3.5 以内
	幅	±0.9 以内	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.8 以上			-0.7 以上
	厚	-50 以上						
上 層 路 盤 セメント処理 混合物	締 固 め 度	-25 以上	- 8 以上			舗装要綱P161.165		
	厚	管理データ による場合	93%以上	95%以上	95.5% 以上			96.5%以上
	2.36 75μm	粒度 (%)	±15 以内	±10 以内	±9.5 以内			±8.5 以内
		セメント・石灰量 (%)	± 6 以内	± 4 以内	± 4 以内			± 3.5 以内
締 固 め 度	±1.2 以内	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.7 以上			

工種	測定対象		規格値 (単位mm)				管理基準	摘要
	測定項目	個々の測定値	10個の測定値の平均 X10	X6	X3			
舗装	基層	幅	-25 以上				基準密度については基準密度報告書を作成し承諾を受ける 基層及び表層は「床版工事及び舗装工事の出来形図表」による 粒度及びアスファルト量は「舗装設計施工基準」による なお、数値については「アスファルト舗装要綱」による(品質の合格判定値に準ずる)	舗装要綱P161.165 要綱P161.165 舗装設計・施工基準P13 舗装設計施工基準P58
		厚	-9 以上	-3 以上				
	締固め度 (%)	管理データによる場合		抜取検査による場合				
		94%以上		96.0% 以上	96.0% 以上	96.5%以上		
	粒度 (%)	±12 以内	±8.0以内	±8.0以内	±7.5以内	±7.0以内		
	アスファルト量 (%)	±5 以内	±3.5以内	±3.5以内	±3.5以内	±3.0以内		
表層	幅	-25 以上				粒度及びアスファルト量は「舗装設計施工基準」による なお、数値については「アスファルト舗装要綱」による(品質の合格判定値に準ずる)	要綱P161.165 舗装設計・施工基準P13 舗装設計施工基準P58	
		-7 以上	-2 以上					
	締固め度 (%)	管理データによる場合		抜取検査による場合				
		(94以上)		96.0% 以上	96.0% 以上			96.5%以上
	粒度 (%)	±12 以内	±8.0以内	±8.0以内	±7.5以内			±7.0以内
	アスファルト量 (%)	±5 以内	±3.5以内	±3.5以内	±3.5以内			±3.0以内
動的安定度	3000回/mm以上	±0.9 以内	±0.55以内	±0.5以内	±0.5以内	粗粒度ギャップアスファルト混合物300回 グーアスアスファルト300回/mm以上		
平坦性		3mプロファイルメーター: δ2.4mm以内						

工 種	測 定 対 象		規 格 値 (単位mm)				管 理 基 準	摘 要
	測 定 項 目	個々の測定値	10個の測定値の平均 X10	X6	X3			
排水性舗装 (基層工)	幅	-25 以上	-			コンクリート床版上の排水性 舗装設計・施工要領P33		
	厚	- 9 以上	- 3 以上					
	粒度 (%)	±12 以内	±8.0以内	±7.5以内	±7.0以内			
	75μm	± 5 以内	±3.5以内	±3.5以内	±3.0以内			
	アスファルト量(%)	± 0.9 以内	±0.55以内	±0.5以内	±0.5以内			
排水性舗装 (表層工)	幅	-25 以上	-			舗装要綱P161.165		
	厚	- 7 以上	- 2 以上					
	粒度 (%)	±12 以内	±8.0以内	±7.5以内	±7.0以内			
	75μm	± 5 以内	±3.5以内	±3.5以内	±3.0以内			
	アスファルト量(%)	± 0.9 以内	±0.55以内	±0.5以内	±0.5以内			
舗 装 工 (3)	平坦性	3mプロファイルメーター: δ 2.4mm以内・直読式1.75以下						
	現場透水量 ml/15sec	900 ml 以上	1000 ml 以上					
	幅	-25 以上						
ゲースアスファルト 舗装工	厚	- 9 以上	- 3 以上					

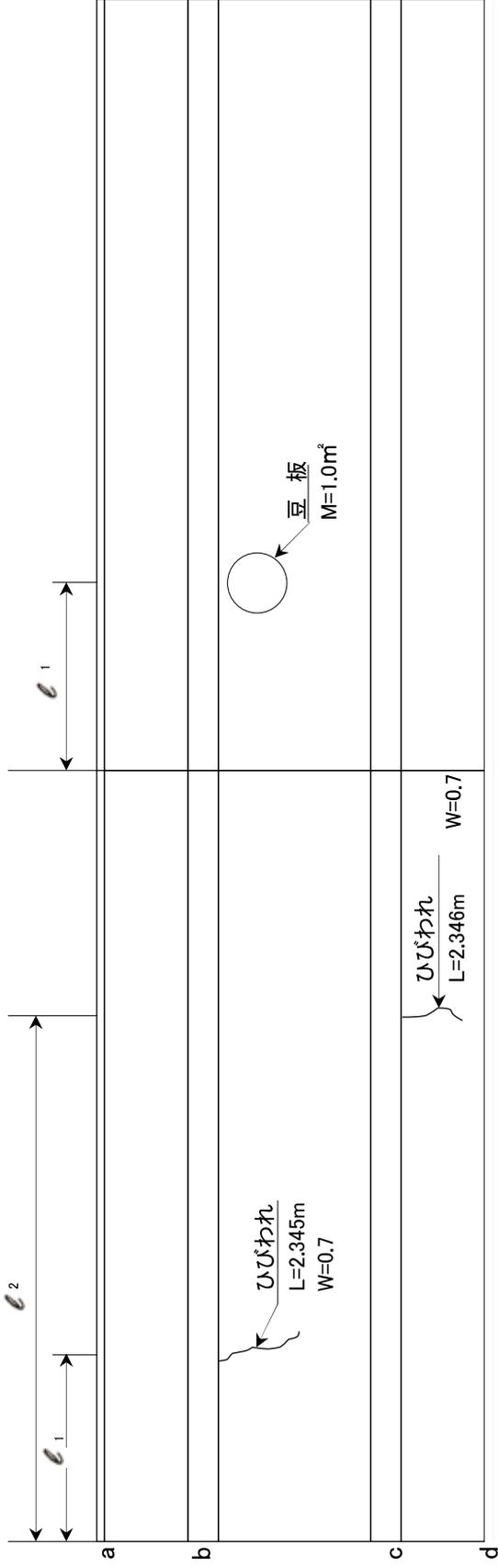
測 定 対 象	規 格 値 (単位mm)			管 理 基 準	摘 要
	測 定 項 目	個々の測定値	10個の測定値の平均 X10		
工 種	幅	-25 以上			
	厚 さ	-10 以上	- 3.5 以上		
	平 坦 性	3mプロファイルメーター: δ 2.0mm以内			手仕上げの場合 平坦性は2.5mm以内
舗 装 工 (4)	厚 さ	総 厚	- 9 以上	- 3 以上	
		表 層 厚	- 7 以上	- 2 以上	
		レバ`リンク`層 厚	- 7 以内	- 2 以上	グーアスファルトのみ
	路面の平坦性	3mプロファイルメーター: δ 2.4mm以内			
	路面の外観	異常の無いこと			
浸透厚さ	すべて10mm 以内			半たわみ性舗装のみ	
すべり抵抗値	BPN60以上			一車線200m間隔	JH舗装施工管理要領P25 振り子式試験は舗装試験法便覧によるP960~ 舗装設計施工基準P59
路 肩 部	平坦性	道路方向200m毎に 路肩縁1本当たり1箇所、 計4箇所	3m定規で測定したすき間(高偏差)が5mm以内		
	舗装総厚	1工事区間当り10個	すべてが7mm以内		
非 常 駐 車 帯・ セ ット バ ッ ク 部	平坦性	1箇所当り5箇所	3m定規で測定したすき間が5mm以内		
	舗装総厚	1箇所当り3個	すべてが7mm以内		

出 来 形 图 表

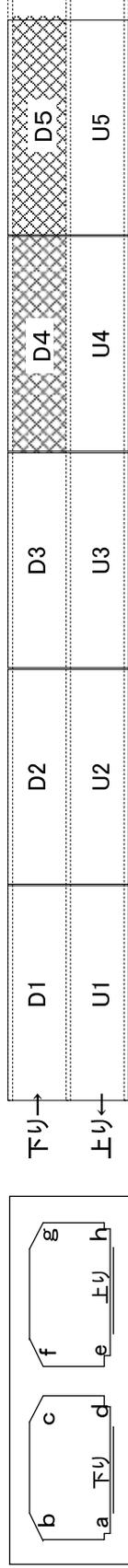
出来形図表 目 次

11-1	盛土工及び切土工の出来形図表
11-2	路盤工の出来形図表
12-1	擁壁・ブロック積の出来形図表
12-2	函渠、側溝、管渠の出来形図表
13-1	トンネル出来形図表
13-2	トンネル出来形管理表
14-1	基礎杭の出来形図表
14-2	ケーソンの出来形図表
14-3	下部の出来形図表
14-4	下部の出来形図表
14-5	沓座設置出来形図表
14-6	沓座アンカーボルト出来形管理表
15-1	PC桁工事の出来形図表
15-2	PC桁工事の出来形図表
16-1	床版工事の出来形図表
16-2	床版工事及び舗装工事の出来形図表
16-3	床版遊間量の測定図表
17-1	鋼桁、床版、舗装工事の出来形図表
17-2	舗装平坦性出来形図表
18-1	街築工事の出来形図表
18-2	街築工事の出来形図表
18-3	街築工事の出来形図表
19-1	防音壁工事の出来形図表

図表-13(2) トンネル出来形管理表



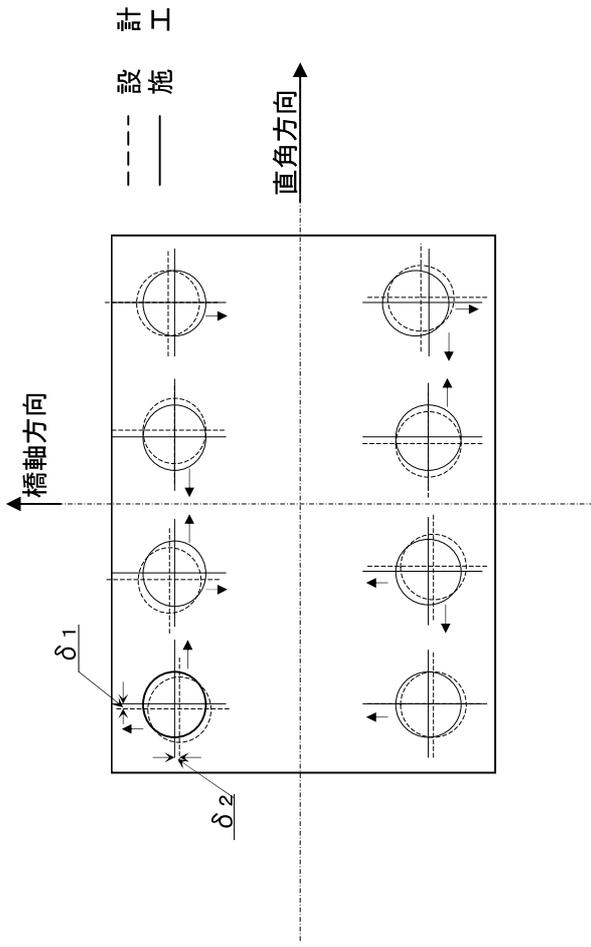
位置図



単位: mm

函体No	D4				
	l_1	l_2	l_3	l_n	l_n
端部からの距離	10.5m	20.0m			7.5m
損傷等	ひびわれ $L=2345$ $W=0.7$	ひびわれ $L=2346$ $W=0.7$			豆板 $M=1.0 m^2$
適用					

図表-14(1) 基礎杭の出来高図表



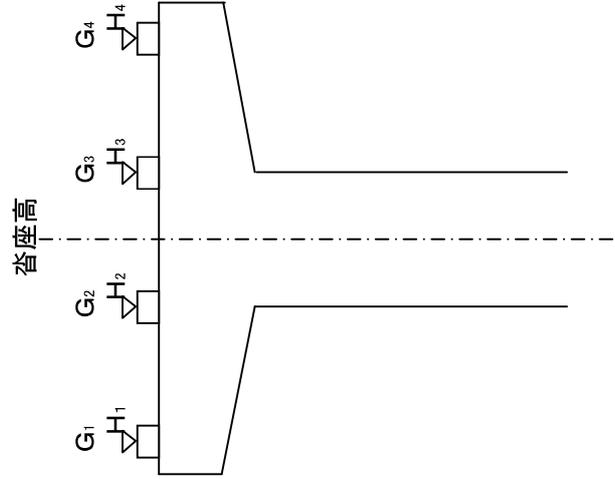
橋脚番号

杭 No.	δ_1	δ_2	$(\delta_1^2 + \delta_2^2)^{1/2}$	規格値

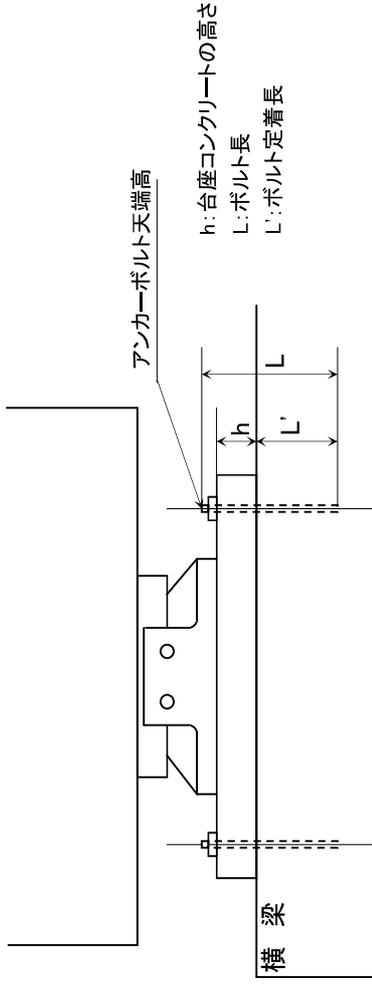
- 注1. 現場打コンクリート杭、既製杭、鋼製杭について作成する。
 2. 誤差の数値は、mm単位で図中に記入する。

図表一14(3) 下部の出来形図表

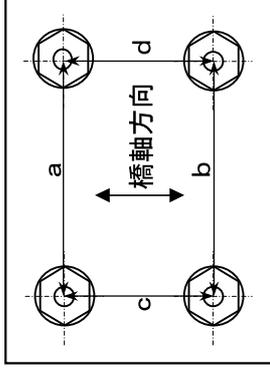
橋脚番号	省座番号	G ₁	G ₂	G ₃	G ₄	G _n
		H ₁	H ₂	H ₃	H ₄	H _n
脚番号-1側	種別					
	基準高					
	施工高					
	誤差					
脚番号+1側	種別					
	基準高					
	施工高					
	誤差					
		規格値				
		規格値				



図表一14(6) (鋼製支承及びゴム支承)
 沓座アンカーボルト 出来形管理表
 (規格値・ボルト高さ 0~20mm 群水平度5mm以内)



ボルト間距離

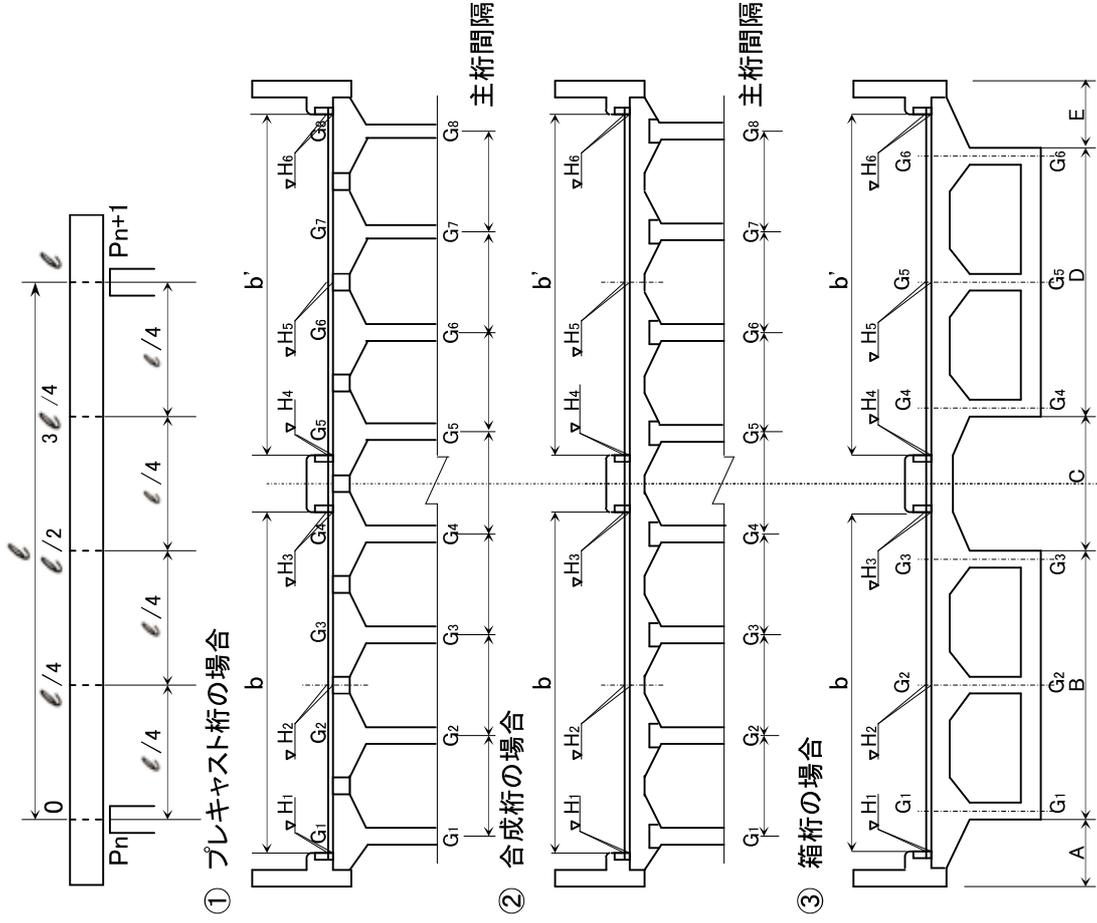


単位:mm

沓座番号	1				2			
	1	2	3	4	1	2	3	4
ボルト番号								
ボルト径φ								
ボルト長L(L')								
ボルト設計高								
ボルト実測高								
誤差								
群水平度								
ボルト間距離	a	b	c	d	a	b	c	d
設計値								
実測値								
誤差								

ボルト相互間距離の規格 ±5mm以内

図表一15(1) PC桁工事の出来形図表



- 注1. ①、②、③を参考にして、設計横断面図を書く。
2. 図表は、各径間毎に1枚の図面(A1版)に表示し、施工高関係は図表一15(2)に準じて作成する
3. 本出来形図一15(1)、15(2)表は、舗装工事の資料として引き継ぐ。
4. 主桁間隔の測定位置は橋脚位置で行う。ただし③の場合は、/4点も測定を行う。

①、②の場合

位置	桁番号		寸法			
	設計	施工	G ₁ -G ₂	G ₂ -G ₃	G ₃ -G ₄	G ₄ -G ₅
P _n	P _{n-1}	計				
		工				
		差				
P _{n+1}	P _{n+1}	計				
		工				
		差				

③の場合

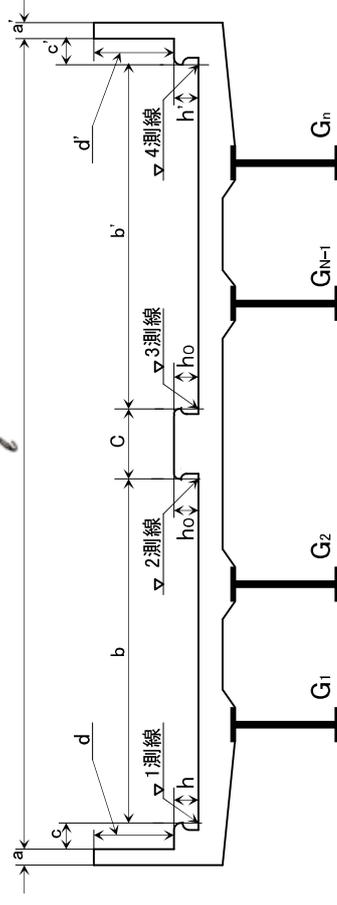
橋軸位置	横断位置		寸法			
	A	B	C	D	E	
P _n	P _n 上	計				
	or	工				
	P _{n+1} 上	差				
P _{n+1}	/4	計				
	間隔	工				
		差				

図表-15(2) PC桁工事の出来形図表

主桁の管理		平成 年 月		平成 年 月		平成 年 月		平成 年 月		製作年月日
		管理	座高	モルタル厚(mm)	プレストレス導入時高(mm)	桁間コンクリート打設前高	床版コンクリート打設前高	プレストレス導入後高	床版コンクリート打設後高	
橋軸位置	沓座高	P_n	P_{n+1}	P_n	P_{n+1}	0	0	0	0	
	モルタル厚									
	沓座高									
桁位置	計算値									
	実測値									
	差									
G	計算値									
	実測値									
	差									
G ₂	計算値									
	実測値									
	差									
G ₃	計算値									
	実測値									
	差									
G ₄	計算値									
	実測値									
	差									
G _n	計算値									
	実測値									
	差									

出来上り高さの管理		平成 年 月		平成 年 月		平成 年 月		平成 年 月		最終計画高(計算値見込)
		管理	方向	管理	方向	管理	方向	管理	方向	
橋軸方向	沓座高	H_1	H_2	H_4	H_n	0	0	0	0	
	モルタル厚									
	沓座高									
横断方向	計算値									
	実測値									
	差									
H ₁	計算値									
	実測値									
	差									
H ₂	計算値									
	実測値									
	差									
H ₄	計算値									
	実測値									
	差									
H _n	計算値									
	実測値									
	差									
しゅん功時高さ										

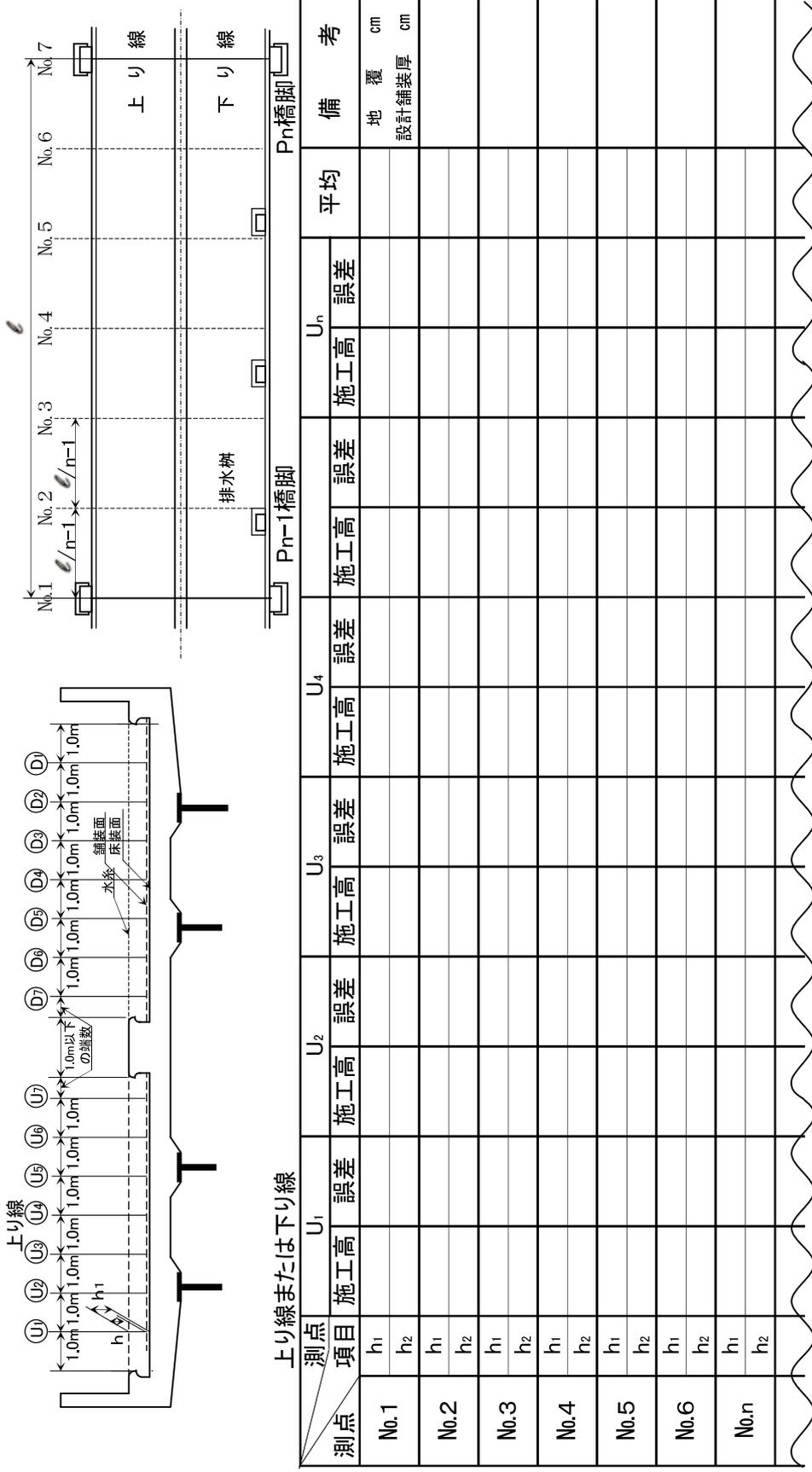
図表-16(1) 床版工事の出来形図表



項目 格点番号	寸法																	
	高欄		地覆		中央分離帯		高欄		地覆		員幅							
	左	右	左	右	高	幅	左側斜線b	右側斜線b'	中央分離帯幅C	幅	員幅	員幅						
	施工高	d	施工高	h	施工高	a	施工高	c	施工高	a	設計	施工	設計	施工	設計	設計	施工	
	誤差	誤差	施工高	h	誤差	施工高	a	誤差	施工高	a	設計	施工	設計	施工	設計	設計	施工	設計

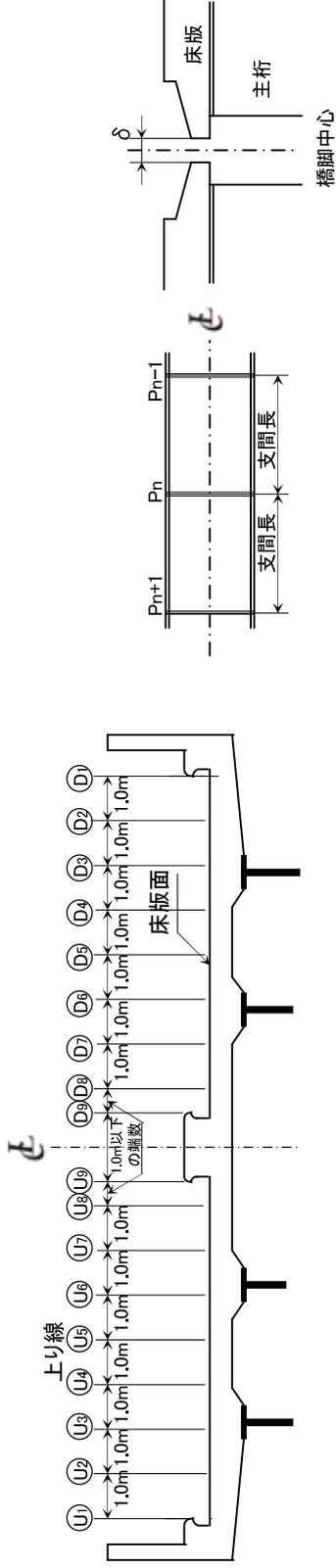
注 1. 格点番号は上部工事と同じ位置とする。 2. 測定する格点番号位置についてはマーク表示等を行う。

図表一16(2) 床版工事及び舗装工事の出来形図表



- 注1. 本出来形図表は舗装工事の資料として引き継ぐ。
- 注2. 格点番号は、上部工事(床版工事)と同じ位置とする。
- 注3. h2の値は舗装工事で記入する。

図表-16(3) 床版游間量の測定図表

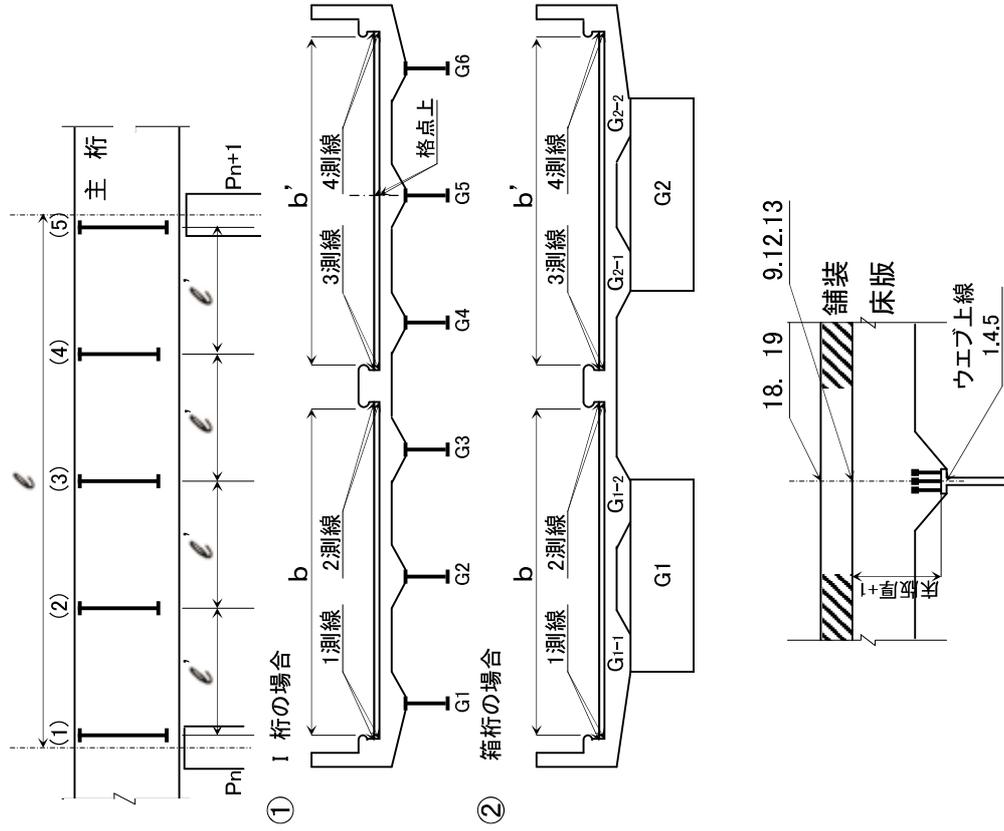


橋脚番号	支承条件	支間長 m	測定年月		測定時温度				備考	
			測定位置	測定値(δ)	U1	U2	U3	U4		平均値
Pn-1側	Mov		上り線	床版 游間量						
	Fix		下り線							
Pn側	Mov		上り線	床版 游間量						
	Fix		下り線							
Pn+2側	Mov		上り線	床版 游間量						
	Fix		下り線							

単位: mm

注1. 本表の床版游間量の測定は、「伸縮継手設計施工要領」に従って行なう
 2. 本表は設計グループへも提出する。

図表-17(1) 鋼桁、床版、舗装工事の出来形図表

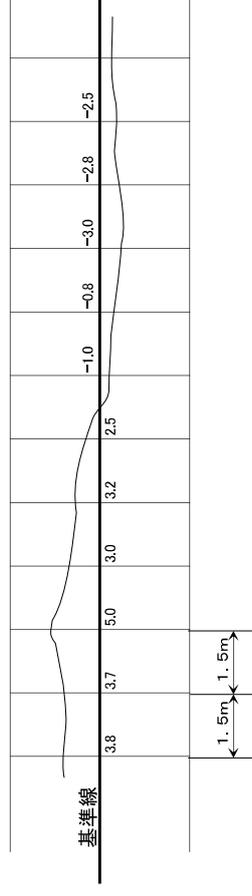
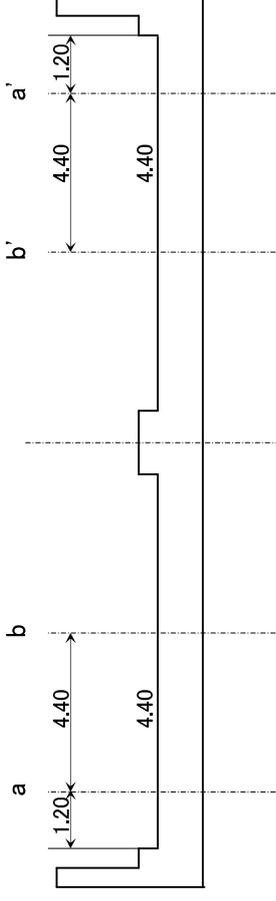


項目		Pn ~ Pn+1		格点n	1測線 G1
鋼桁架設前	I ※1. 基準高			上	
鋼桁架設後 架設工 施	2. 鋼桁自重によるタワミ量			上	
	3. 橋梁のタルミ量による変位量			上	
	4. 基準高(ウエブ上線)		1-(2+3)	上	
	5. 施工高(ウエブ上線)			上、床	
	6. 誤差		5-4	上、床	
	7. 床版設計ハンチ高			上	
床版打設計画 高	8. 床版修正ハンチ高		7-6	上、床	
	9. 床版打設基準高			上	
	10. 床版によるタワミ量		4+7+床版厚	上	
床版打設後 架設工 施	11. 橋梁のタワミ量による変位量			上	
	12. 基準高		9-(10+11)	上	
	13. 施工高			床、舗	
	14. 誤差		13-12	床、舗	
舗装打設計画高	15. 舗装設計厚			上	
	16. 舗装によるタワミ量			上	
舗装打設後 架設工 施	17. 橋梁のタワミ量による変位量			上	
	18. 計画高(路面)			上、床	
	19. 施工高			舗	
	20. 誤差		19-18	舗	
	21. 上フランジ厚			上	
	22. 製作キヤンバー		2+10+16	上	
記事欄	1	※1=18-(15+7+床版厚)+22+3+11+17 (高欄、地覆、分離帯含む)			

注1. 測定年月、測定時温度を記入する。 2. 本図表は、床版及び舗装工事の資料として引き継ぐ。

図表-17(2) 舗装平坦性出来形図表

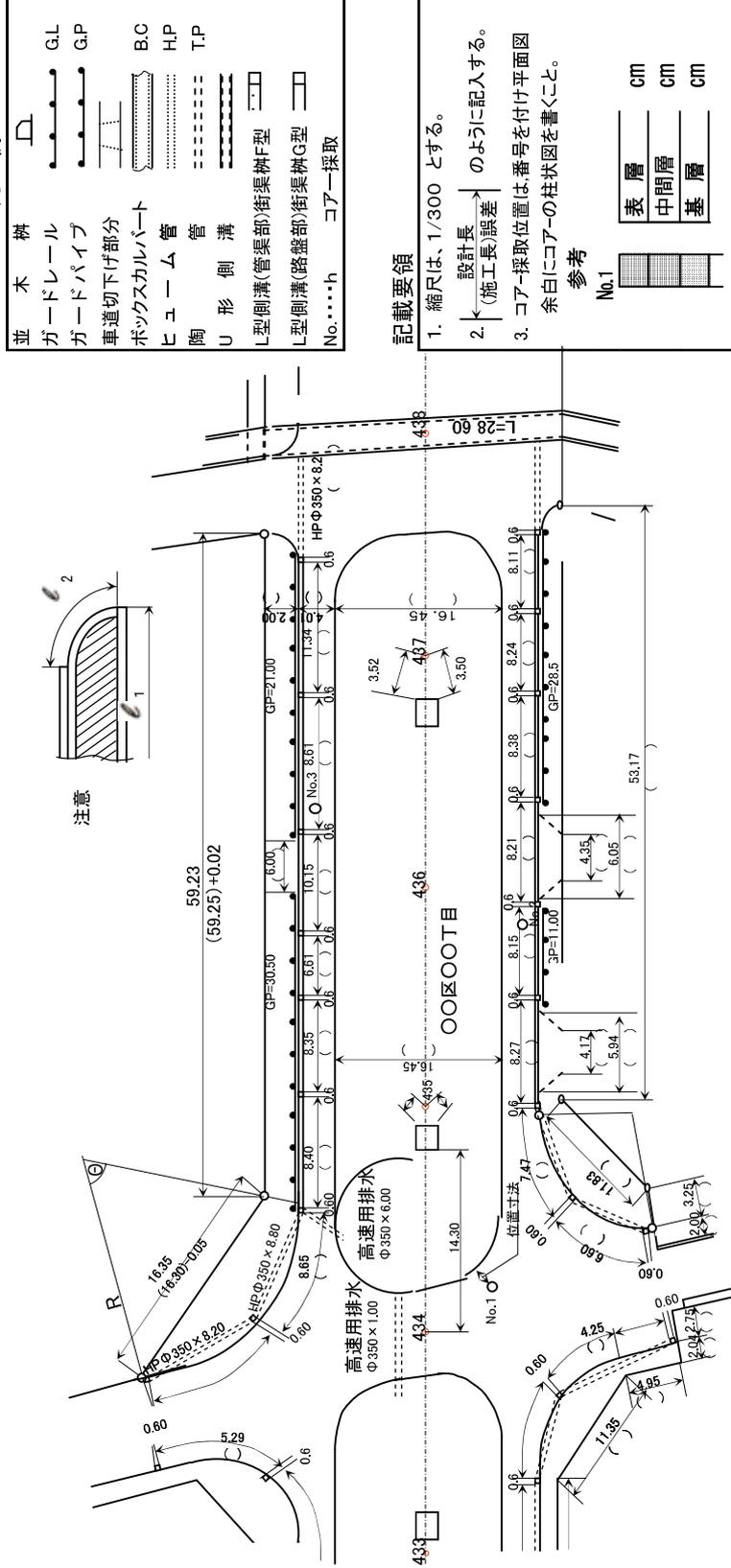
路面の平坦性試験										試験用紙 報告			
調査・工事名		A 舗装工事		試験年月日		年 月 日							
測定区間		No. ~ No.		測定器の種類									
測標の位置		C m		3mプロファイルメーター									
測定距離		A km		試験者									
n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Gimax ①	Gimini ②	Ri ①-②
Gi													
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
④	測定値の数nによってきまる 定数d2										③合計ΣRi		
⑤	Riの平均値 ③/n												
⑥	標準偏差 ⑤/④												



注1. 平坦性の測定は、車線a、b、a'、b'線について全延長に亙り行うこと。

図表-18(1) 街築工事の出来形図表

平面図



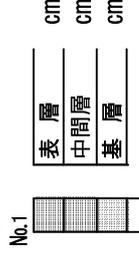
凡例

並木		G.L
ガードレール		G.P
車道切下げ部分		B.C
ボックスカルバート		H.P
ヒューム管		T.P
U形側溝		
L型側溝(管渠部)		
L型側溝(路盤部)		
No.h		コア-採取

記載要領

1. 縮尺は、1/300 とする。
2. 設計長 (施工長誤差) のように記入する。
3. コア-採取位置は、番号を付け平面図余白にコア-の柱状図を書くこと。

参考

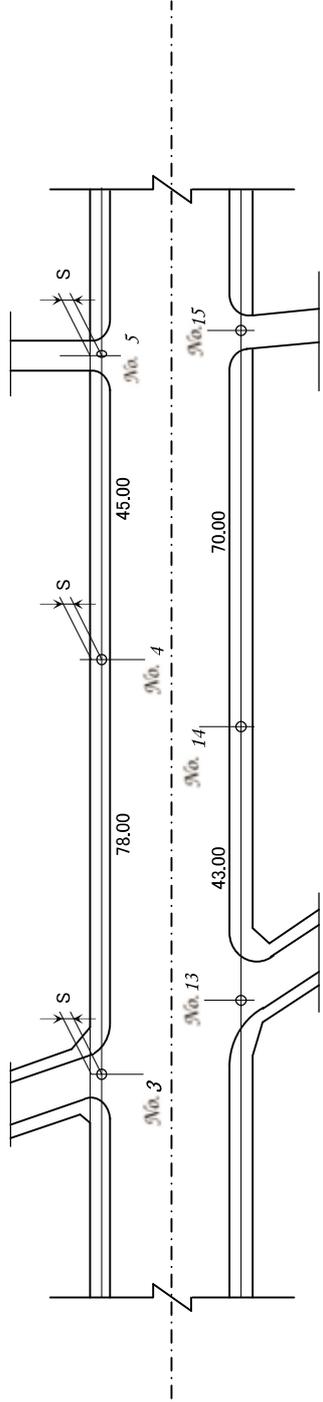


1. 街築工事の出来形図表は委託先の仕様を原則とする。
2. 平面図は本図を参考にして書く。
3. 測点は20m間隔とする。
4. 後日測点位置がわかるよう、既設構造物からの距離を明示しておくこと。
5. 施工後実測する場合に歩道止石(曲線部)上境石との結合点の長さが重複するので注意すること。

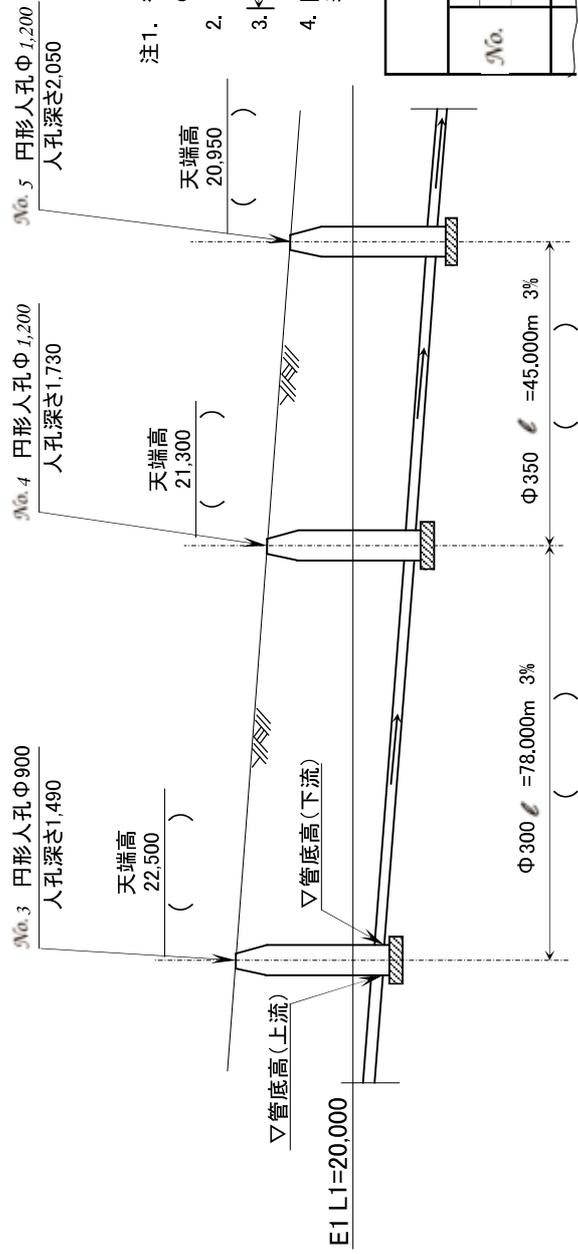
施工箇所	工種	設計長	施工長	備考
左第一	街渠工			
右第一	歩道止石工			

図表-18(2) 街築工事の出来形図表

平面図



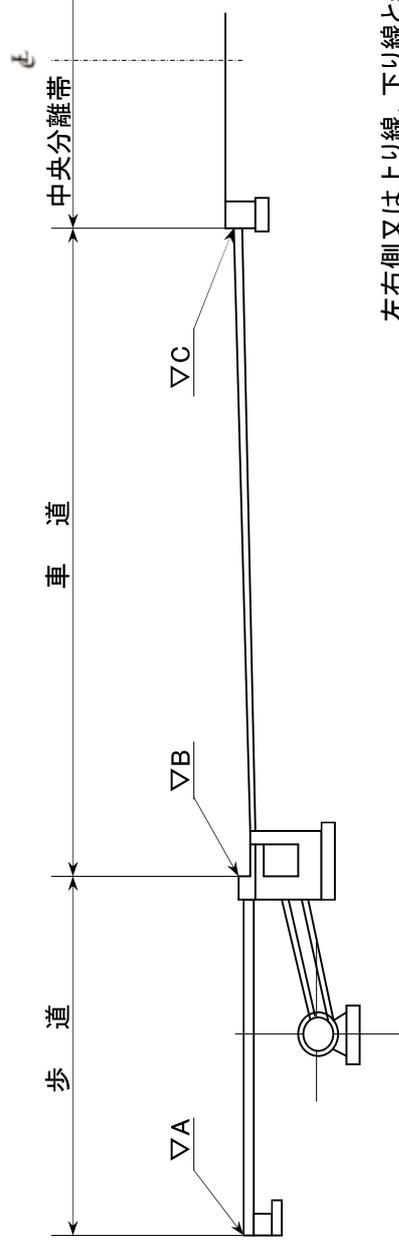
排水断面図



- 注1. 街築工事の出来形図は、委託先の仕様を原則とする。
- 2. 設計排水縦断面を使用する。
- 3. 設計長 (施工長)誤差のように入力する
- 4. 図表は1枚の図面(A1版)に表示する。

No.	管底高		平面位置
	上流	下流	
設計			S
施工			
誤差			

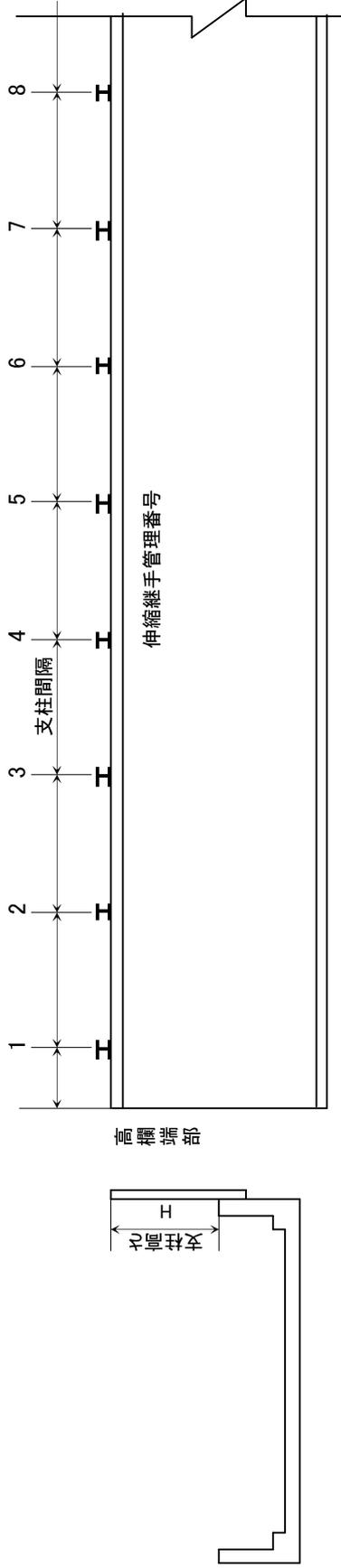
図表一18(3) 街築工事の出来形図表



測点番号 No.	員 分 離 帯										高 路			面 右		
	幅 道		歩 道		車 道		分 離 帯		高 路							
	車 左	車 右	歩 左	歩 右	道 左	道 右	分 左	分 右	左	中	右					

注1. 街築工事の出来形図表は、委託先の仕様を原則とする。

図表-19 防音壁工事の出来形図形



支柱番号	支柱間隔		支柱高さ		備考
	設計値	実測値	設計値	実測値	
高欄端部					
1					
2					
3					
4					
5					

出来形管理基準（保全土木編）

平成 18 年 2 月

首都高速道路株式会社

ま え が き

首都高速道路株式会社では、前身の公団の時代から、保全部門（管理局）で発注した工事目的物の施工管理に関する規定を、土木工事共通仕様書に記載されている出来形規格値、保全（土木編）共通仕様書、土木材料共通仕様書等により出来形・品質の規格値を定め品質の向上を図ってきた。

工事目的物の品質は、施工過程における出来形管理及び品質管理の善し悪しに依って大きく影響されるものであるため、この度『出来形管理基準（保全土木編）』（以下『基準』という。）を新たに制定した。

本基準は、支承・連結装置耐震性向上工、床組構造改築工、鋼製橋脚隅角部補強工、遮音壁設置工及び裏面吸音板設置工について記述した。

本基準では、工種毎に工事目的物の出来形に係わる「出来形管理基準」と施工過程の品質管理に係わる「品質管理基準」に分けて記述した。

また、付録として出来形図表を参考に掲載した。

本基準は、今後の一層の品質向上に向けてさらなる整備を行うことを目的に、多くの方に利用して頂き、たくさんの意見を徴収できれば幸いと考えている。

以上

出来形管理基準 (保全土木編)

目 次

1	支承・連結装置耐震性向上工	
1-1	鋼製橋脚天端拡幅工	1～4頁
1-2	鉄筋コンクリート橋脚天端拡幅工	5～6頁
1-3	支承取替工	7～11頁
1-4	鋼桁・桁連結装置工	12～14頁
1-5	変位制限構造	15頁
2	床組構造改築工(炭素繊維補強)	16～17頁
3	鋼製橋脚隅角部補強工(あて板補強)	18～20頁
4	遮音壁設置工	21～22頁
5	裏面吸音板設置工	23～26頁

参 考 資 料

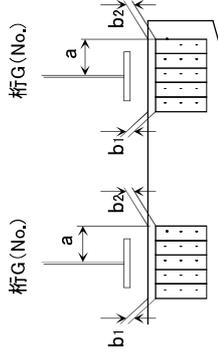
- § 1 天端拡幅ブラケット出来形管理表
- § 2 支承ベースプレート据付管理表
- § 3 支承据付出来形図表
- § 4 桁連結装置遊間出来形図表

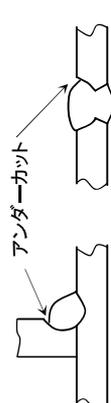
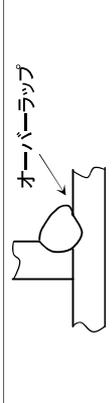
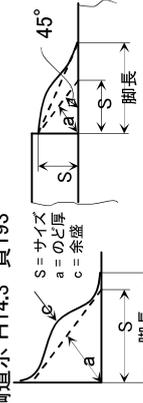
参 考 図

- 補強板取付出来形図
- ストップホール出来形図
- スカラップ出来形図
- 大コア抜き出来形図

1-1 鋼製橋脚天端拡幅工

工種		測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
		測定項目					
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)		孔明工	孔明径・位置・数の確認	摩擦接合 M20、M22、M24のボルト孔の径 の許容差は、各ボルト径+0.5	孔の処理状況確認および貫通ゲージで 確認する 貫通ゲージ径は各ボルト径+1.0 摩擦接合の貫通率100%	鋼道示 H14.3 頁425	
			ブラケット取付位置 および据付精度	横方向 a	±5	既設ウェブセンターから ブラケット端部までの長さ確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案)H10.5 支承・連結装置耐震性向上工事
				高さ b1 b2	±5	ブラケット両端での橋脚天端高さの確認	
水平度	1/50	橋軸直角方向のみ					

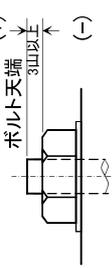
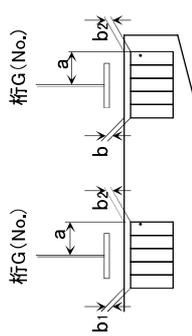


測定対象		規格値 (単位mm)		品質管理基準	摘要
		工種	測定項目		
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	素地調整工	ケレン範囲	アーク接触面 +50以上 補強材(溶接) 周囲+100以上	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6	
		素地調整状況		さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる	
橋脚補強材 現場溶接工	ビード長	80以上		開先溶接	
	密着度	1< δ <3 3< δ δ : 材片間の隙間	脚長を δ のばす 開先を取り溶接	ルート間隔の誤差:規定値 \pm 1.0mm以下 開先角度:規定値 \pm 10° すみ肉溶接 材片の密着度:1.0mm以下	すみ肉溶接の最小有効長は サイズの10倍以上、且つ80mm以上確保する 鋼道示 H14.3 頁193・194
補強材取付 現場溶接工	外観目視			われ、スラグ、スパッタがないこと	
	アンダーカット	主要部材に働く一次応力に直行するビード止端部 許容量0.3mm 主要部材に働く一次応力に平行なビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量 0.8mm			鋼道示 H14.3 頁457 鋼道路橋施工便覧 頁116 
補強材取付 現場溶接工	オーバーラップ			あってはならない	
	ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲における高低差で表し、3mmを超える凹凸があってはならない			鋼道示 H14.3 頁457
浸透探傷	すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚	規定値以上		1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに \pm 1.0mmの誤差を認める	 鋼道示 H14.3 頁193 不等脚の場合の溶接のサイズ
				われがあってはならない	

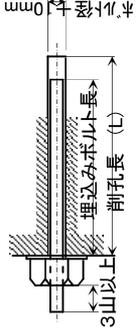
測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要		
工種	測定項目					
鋼製橋脚天端 支柱・連結耐震性 向上工事	高カボルト接合面 処理確認	0.4以上のすべり係数値 を得られるよう処理する	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等附着物の除去	鋼道示 H14.3 頁469		
		常温時(10~30℃)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20—172KN~202KN M22—212KN~249KN M24—247KN~290KN	*5本/日の締付け軸力試験 *A-R管理図作成	鋼道示 H14.3 頁473-477 トルシア形高カボルト施工管理要領 S58.4 頁2		
		常温時以外(0°~10°、30°~60° C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20—167KN~211KN M22—207KN~261KN M24—241KN~304KN				
		高カボルト現場予備試験 (トルシアボルト)	締付け機の調整に用いるボルト軸力 F10T M20—172KN~190KN M22—215KN~237KN M24—249KN~275KN		トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	鋼道示 H14.3 頁204 鋼道路橋施工便覧 頁195
		高カ六角ボルト		変動係数 5% 出荷時	鋼道路橋施工便覧 頁196	
		軸力計の検定		施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時は、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	トルシア形高カボルト施工管理要領 S58.4 頁10 鋼道示 H14.3 頁475	
		トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	鋼道示 H14.3 頁475	
		高カボルト予備一次締め	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%	ナット・座金・母材にかけてのマーキングの確認	トルシア形高カボルト施工管理要領 S58.4 頁15 土木事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6	
		ボルト締付け後(トルシアボルト)		ピンテールの切断・マーキングの変動	トルシア形高カボルト施工管理要領 S58.4 頁16	
		ボルト締付け後(高カ六角ボルト)		トルク法 トルクレンチによる10%抜取り検査 回転角法 マーキングの変動	土木事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6	
継手の肌すき		部材と連結材は締付けにより密着させる				
ボルト孔径の許容差	ボルト孔径	M20		鋼道示 H14.3 頁424		
		M22	22.5			
		M24	24.5			
		M20~M24	26.5			
摩擦接合	摩擦接合	M20~M24	±0.5	鋼道示 H14.3 頁425		
				摩擦接合の場合は1ボルト郡の20%に 対しては、+1.0mmまで認めてよい		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	現場塗装工	塗料現場材料	製造ロット毎に塗料製造会社で行った品質試験結果を確認 設計数量 (空缶確認) 製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
		塗装完了外觀	塗料工事終了後の空缶数量の確認	
		塗膜厚	たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があらわれない 1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上	
支承・連結耐震性向上工事				

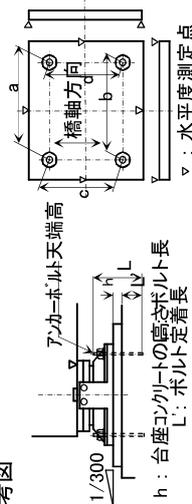
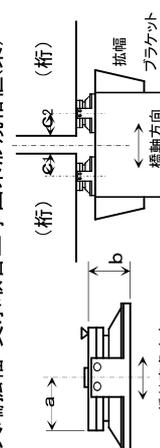
1-2 鉄筋コンクリート橋脚天端拡幅工

測定対象		測定項目	規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種						
R C 橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	アンカーボルト設置工	定着長 (最小埋込長)	15D以上 (Dはアンカー径)		既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9.9頁57	
	アンカーボルト締付工	ナットからの頭出し量	3山以上		締め忘れ、ナットの緩み等の確認 	
	アンカーボルトの施工精度	ボルト群天端高	0～+20			
		ボルト群水平度	5 以内			
		ボルト相互間の間隔	±5			
		鉛直度	1/200			
	ブラケット取付位置 および据付精度	横方向 a	±5		既設ウェブセンターから ブラケット端部までの長さ確認	
		高さ b1 b2	±5		ブラケット中心での橋脚天端高さ	
		水平度	1/50		橋軸直角方向のみ	
	ブラケット製作精度	板厚	(-)側の許容差が 公称板厚の5%以内			土木材料共通仕様書 頁24
幅		±2				
高さ		±2				
孔位置		±2				
孔径		0～+5				
	平面度	H/250				

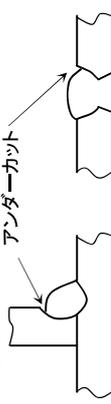
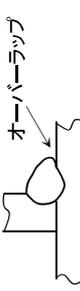
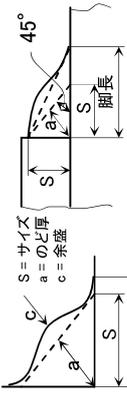
支承・連結耐震性向上工事

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
R C 橋 脚 天 端 拡 幅 工 (ブラケット取付工)	削孔位置、数、その他		孔内清掃状況も目視確認 主鉄筋が切断されていないこと だめ孔は完全に処理すること 鉄筋探査後の孔明位置図を作成すること アンカーボルトのネジ部の余長は、3山以上	 <p>既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9.9 頁57</p>
	アンカーボルト削孔工	ボルト径 +10		
	削孔長	設計削孔長以上		
	最小埋込長 (定着長)	15D以上 (Dはアンカー径)	定着長はUT検査で確認すること(H15.6.9 保 全指導第82号「落橋防止装置等のアンカーボルト 定着不足工事の再発防止について」)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9.9 頁57
	エポキシ樹脂注入工 (現場搬入前検査)	補修用エポキシ樹脂施工基準 S56.2 頁4~6 表-1および表- 2(a)(b)の規格値	1ロット毎3回または3個の試験の平均値を算出	補修用エポキシ樹脂施工基準 S56.2 頁42
	(施工中検査)	同上	使用エポキシ樹脂3tにつき1回 または1工事につき1回	
	アンカーボルト樹脂注入 工		空洞があつてはならない(樹脂注入孔から樹 脂が溢れ、取付けているビニール袋に溜まっ たことを確認する)	
	背面樹脂注入工	管理目標値 2 以上 平均 3	樹脂注入パイプ、エア抜きパイプの確認	補修用エポキシ樹脂施工基準 S56.2 頁26 コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 H17.7 頁43
	コンクリート面処理	ブラケット接触面 + 30mm以上	塗膜、汚れ等の不純物除去	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 H17.7 頁47
	アンカーボルト 引抜強度試験		許容最大引抜力以上3本(径ごと)	

1-3 支 承 取 替 工

工 種		測 定 対 象		規 格 値 (単位mm)	出 来 形 管 理 基 準	摘 要
		測 定 項 目				
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事	支 承 取 替 工	据付高さ		-5 ~ +3		支 承 ・ 連 結 装 置 耐 震 性 向 上 工 事 に お け る 支 承 取 替 時 の 据 付 高 さ 管 理 に つ い て H12.9.6 保 全 施 設 部 (事 務 連 絡) 道 路 橋 支 承 便 覧 頁 266 道 路 橋 支 承 便 覧 頁 266 参 考 図 
		可動支承の移動可能量		設計移動量 +10以上		
		可動支承の橋軸方向のずれ		5		
		ゴム支承の据付精度		4+0.5×(B-2) Bは支承中心間隔(m)		
		支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)		±5		
		RC橋		橋軸方向 1/300 橋軸直角方向 1/300		
		支 承 水 平 度		3以内(絶対値)を原則とする		
		隣接する支承間の支 承 据 付 高 さ の 相 対 変 化 量				
		据付高さ		-5 ~ +3		
		可動支承の移動可能量		設計移動量 +10以上		
可動支承の橋軸方向のずれ		5				
鋼製支承の据付精度		4+0.5×(B-2) Bは支承中心間隔(m)				
支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)		±5				
RC橋		橋軸方向 1/100 橋軸直角方向 1/100				
支 承 水 平 度		3以内(絶対値)を原則とする				
隣接する支承間の支 承 据 付 高 さ の 相 対 変 化 量						
支 承 中 心 間 隔 a		主桁webセンターから上咨 端部までの長さを確認する 上記「据付精度」規格値参照				
取付位置 b		ベースプレート上面 から上咨天端高さ ±5				
据付精度 (ゴム、鋼製共通)		桁端から支 承 中 心 までの距離 ±10				
						保 全 施 設 部 暫 定 案 H10.5 橋 脚 天 端 幅 度 ・ 支 承 取 替 工 事 出 来 形 規 格 値 (案) 

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
工種	測定項目			
アンカーボルト設置工	定着長 (最小埋込長)	15D以上 (Dはアンカー径)		既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57
	ボルト群天端高	0～+20		
	ボルト群水平度	5 以内		
アンカーボルト の施工精度	ボルト相互間隔	±5		
	鉛直度	1/200		
支 承 取 替 工				
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事				

測 定 対 象		規 格 値 (単位mm)	品 質 管 理 基 準	摘 要	
					工 種
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事	素地調整工	ケレン範囲	部材取付周囲+100以上 (溶接熱影響範囲)	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6	
		素地調整状況			
	仮溶接工	ビート長	80以上	80mmを確保できないような部材の 組立てでも40mm以上確保することが 望ましい	鋼橋施工便覧 頁106 鋼道示 H14.3 頁193,194
		密着度	1< δ <3 脚長を δ のばす 3< δ 開先を取り溶接 δ : 材片間の隙間	すみ肉溶接 材片の密着度 : 1.0mm以下	
		外観目視		われ、スラグ、スパッタがないこと	
	補強材取付 現場溶接工	アンダーカット	主要部材に働く一次応力に直行 するビード止端部 許容量0.3mm 主要部材に働く一次応力に平行 なビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量 0.8mm		鋼道示 H14.3頁457 鋼道路橋施工便覧頁116 
		オーバーラップ		あってはならない	
		ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード 長さ25mmの範囲における高 低差で表し、3mmを超える凹 凸があってはならない		鋼道示 H14.3 頁457
	浸透探傷	すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚	規定値以上	1溶接線の両端各50mmを除く部分 では、溶接長さの10%までの範囲で サイズ及び、のど厚ともに ± 1.0 mm の誤差を認める	鋼道示 H14.3頁193 
				われがあってはならない	不等脚の場合の 溶接のサイズ

測 定 対 象		規 格 値 (単位mm)	品 質 管 理 基 準	摘 要		
					工 種	測 定 項 目
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事	支 承 取 替 工	ジャッキアップ工	ジャッキアップ高さ	3以下	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12.9.6 保全施設部(事務連絡)に準拠	
		ジャッキダウン後の管理値	据付管理値(個々の据付高さ) 桁相互間相対差	-5~+3 0~3	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12.9.6 保全施設部(事務連絡)道路橋支承便覧 頁266・268	
			高力ボルト接合面処理確認	0.4以上のすべり係数値を待たれるよう処理する	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	鋼道示 H14.3 頁469
			高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト軸力 F10T M20—172KN~190KN M22—215KN~237KN M24—249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値) 変動係数 5% 出荷時	鋼道示 H14.3 頁204 鋼道路橋施工便覧 頁195
			軸力計の検定		施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	鋼道路橋施工便覧 頁196
			トルクレンチの検定		基準となる計測機器が示す値の3%以内の値、現場搬入時1回・3カ月に1回の検定試験	鋼道示 H14.3 頁475
			高力ボルト予備一次締め		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	鋼道示 H14.3 頁475
			ボルト締付後(高力六角ボルト)		ナット、座金、母材にかけてのマーキングの確認	土木事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
			継手の肌すき		トルク法 トルクレンチによる10%抜取り検査 回転角法 マーキングの変動	土木事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
		現場塗装工	塗料現場材料		部材と連結材は締付けにより密着させる 製造ロット毎に塗料製造会社で行った品質試験結果を確認 設計数量 社の出荷証明書と現場搬入 (充て確認) 数量を照合 使用数量 塗料工事終了後の空缶数量 (空缶確認)の確認	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
工種	測定項目			
現場塗装工	塗装完了外観		たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があるてはならない	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
	塗膜厚	鋼橋塗装設計・施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上	
アンカーボルト埋込溶接工	ベースプレート表面の水平度	鋼製支承 橋軸方向 1/100		道路橋支承便覧 頁266・268
		橋軸直角方向 1/100 ゴム支承 橋軸方向 1/300 橋軸直角方向 1/300		
支承の溶接部検査			支承の溶接部は浸透探傷による非破壊検査を実施し、溶接が完全であることを確認する	
無収縮モルタル工	圧縮強度	$\sigma > 24.5N/mm^2$ $\sigma > 44.1N/mm^2$		土木材料共通仕様書 頁83
	J 14ロート試験	流下値 8±2 秒	1日2回 午前・午後	
アンカーボルト削孔工	削孔位置、数、その他		孔内清掃状況も目視確認	
			主鉄筋が切断されていないこと だめ孔は完全に処理すること 鉄筋探査後の孔明位置図を作成すること	
	削孔径	ボルト径 +10		既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57
	削孔長	設計削孔長以上		
	最小埋込長(定着長)	15D以上 (Dはアンカー径)	定着長はUT検査で確認すること(H15.6.9 保安指導第82号「落橋防止装置等のアンカーボルト定着不足工事の再発防止について」)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57

支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事
支 承 取 替 工

1-4 鋼桁・桁連結装置

工種		測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
		測定項目				
桁連結装置 (鋼桁タイプ) 支承・連結耐震性向上工事		めがねタイプ	孔明径の確認	0 ~ + 0.5	鋼道示 H14. 3 頁425 に準拠	
			メガネ孔の位置 横方向 C D	± 5	保全施設部 暫定案 H10. 5	
			メガネ孔の高さ A or B	± 5	CDは、支点上補強材よりメガネ孔の中心までの距離	
			補強板据付位置 横方向 a1,a2	± 2	A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりピン孔の中心までの距離	
			連結板据付位置 高さb	± 5	a1,a2は、桁端部より補強板面までの距離 b は、UPフランジより連結板上面までの距離	
ベースタイプ	ピン孔の位置 高さ A or B	± 5	保全施設部 暫定案 H10. 5			
	高さ A or B	± 3	A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりピン孔の中心までの距離			
P C鋼材タイプ	横方向 C	± 3	保全施設部 暫定案 H10. 5			
	高さ A or B	± 3	Cは、桁端部よりブラケット・フランジ前面までの距離 A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりブラケット上部までの距離			

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
素地調整工	ケレン範囲	連結板接触面 +20以上			
	素地調整状況		さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6	
補強材現場溶接工	溶接工は現場溶接工に準ずる	橋脚現場溶接工に準ずる			
	高力ボルト接合面処理確認	0.4以上のすべり係数値を得られるよう処理する	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	鋼道示H14.3 頁469	
高力ボルト接合工	高力ボルト現場予備試験(トルシアボルト)	常温時(10~30°C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-172KN~202KN M22-212KN~249KN M24-247KN~290KN	<ul style="list-style-type: none"> ・5本/日の締付け軸力試験 ・X-R管理図作成 	鋼道示H14.3 頁473・477 トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁2	
		常温時以外(0° ~10° , 30° ~60° C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-167KN~211KN M22-207KN~261KN M24-241KN~304KN			
		締付け機の調整に用いるボルト軸力 F10T M20-172KN~190KN M22-215KN~237KN M24-249KN~275KN			
		トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)			
	高力六角ボルト		変動係数 5% 出荷時		鋼道示H14.3 頁204 鋼道路橋施工便覧 頁195
		軸力計の検定	施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう		鋼道路橋施工便覧 頁196
	トルクレンチの検定	現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	現場搬入時1回・3カ月に1回の検定試験 値、現場搬入時1回・3カ月に1回の検定試験		トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁10 鋼道示 H14.3 頁475
	高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%	ナット、座金、母材にかけてのマーキングの確認		鋼道示H14.3 頁475 トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁15 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
	桁連結装置 (鋼桁タイプ)				
	支承・連結耐震性向上工事				

測 定 対 象		規 格 値 (単位:mm)	品 質 管 理 基 準	摘 要
工 種	測 定 項 目			
高力ボルト接合工	ボルト締付後(トルクボルト)		ピンテールの切断・マーキングの変動	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁16 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
	ボルト締付後(高力六角ボルト)		トルク法 トルク計による10%抜取り検査 回転角法 マーキングの変動	
	塗料現場材料		製造ロット毎に塗料製造会社で行った品質試験結果を確認 製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合 設計数量 (充缶確認) 使用数量 (空缶確認) 塗料工事終了後の空缶数量の確認	
現場塗装工	塗装完了外観		たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
	塗膜厚	鋼橋塗装設計・施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上	
桁 連 結 装 置 (鋼桁タイプ)				
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事				

1-5 変位制限構造

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
工種	測定項目			
支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事 変位制限装置	橋軸方向 C ₁ , C ₂			支 承 ・ 連 結 耐 震 性 向 上 工 事 (暫 定 案) H10. 5 頁 80 落橋防止装置(PC鋼材タイプ)出来形規格値相当
	橋軸直角方向 D	±5		
	据付位置 A, B			

道路橋支承便覧 頁318

(a) 端横げた取付形式

下管 サイドブロック

2 床組構造改築工(炭素繊維補強)

工種		測定対象	測定項目	規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
測定対象						
不陸修正工 (下地処理状況)		隅角部の処理	パテ処理完了後の 平坦性 (α)		任意の100cm間で凹部を5mm以下かつ25mm間で 部分的な凸凹がないこと また、型枠等の段差は1mm以下とする 隅角部辺長方向の直線度は100cm間で±5mm以内 とする	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 保全施設部H17.7 頁27  半径100mm以上
			炭素繊維シート 貼付工	完了確認 浮き、膨れの直径(σ) 浮き、膨れ10~30mm以下 継ぎ手長(L)	30以内 1㎡当り 10個未満 L≥100	
炭素繊維補強						
床組構造改築工						

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
工種	測定項目			
下地処理工	段差修正工 (型枠の段差h)	1 以内	<ul style="list-style-type: none"> 段差修正前の形状寸法の確認 断面修復完了確認 	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 保全施設部H17.7 頁47
	素地調整工			
プライマー工	プライマー塗布状況 及び完了確認		<ul style="list-style-type: none"> 塗布ムラがあってはならない 塗布前のコンクリート表面は乾燥状態にあること 塗布剤が気温に合わせて選択されていること 	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 保全施設部H17.7 頁50
墨出し工	墨出し位置確認		炭素繊維シートの貼り付け位置が割付実施図どおりであること	
表面仕上工			<ul style="list-style-type: none"> 有害な欠陥があってはならない 仕上剤の所定膜厚が確保されていること 	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 保全施設部H17.7 頁50
養生工			雨水や砂・埃が付着しないように必要に応じビニールシート等による養生を行う	
使用材料 (CFRPシート)	付着強度試験	母材破壊または、 引張強度 1.5N/mm ² 以上	施工中に1回以上の付着強度試験を行う	コンクリート橋の床版補強設計・施工要領 保全施設部H17.7 頁50 日本規格協会JIS A 6909 (付着強さ試験による)
炭素繊維補強				
床組構造改築工				

3 鋼製橋脚隅角部補強工(あて板補強)

工種		測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要			
測定項目									
鋼製橋脚隅角部補強工	あて板補強工	支圧ボルト用孔明工 孔明径	ボルトの呼び	支圧接合ボルト 孔の径mm	補強材と母材は支圧ボルトの締付により密着させる・肌すきが生じないようにすること	矩形断面では支圧ボルトに過大なせん断力が作用することがないように配慮することとし、円形断面では補強材に作用する応力が高い位置での肌すきを小さくするよう配慮した打ち込み順序で施工すること 鋼製橋脚隅角部の補強設計施工要領(案) H15.7 頁35 鋼道示H14.3 頁424			
			M20	21.5					
			M22	23.5					
			M24	25.5					
	あて板補強工	支圧ボルト径の許容差	ボルトの呼び	支圧接合ボルト孔の 径の許容差					
			M20	± 0.3					
			M22	± 0.3					
	あて板補強工	支圧ボルト孔の貫通率および停止率	M20	貫通ゲージの径mm			貫通率(%)	停止率(%)	
			M22	20.7			100	21.8	100
			M24	22.7			100	23.8	100
あて板補強工	取付部材精度	M20	24.7	100	25.8	100			
		項目		管理目標値	管理限界値				
		側面あて板部	0 ≤ δ ≤ 3	0 ≤ δ ≤ 5					
あて板補強工	あて板補強工	側面あて板部を除く	0 ≤ δ ≤ 5	0 ≤ δ ≤ 10	ファイナプレーットで調整 鋼製橋脚隅角部補修補強時の支圧接合における施工管理について H14.8 資料 頁10 管理目標値並びに管理限界値は参考値であり、実施設計において設計担当部署と協議のうえ数値を定めること				

工種		測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
		測定項目	測定範囲			
鋼製橋脚隅角部補強工	素地調整工	ケレン範囲	素地調整状況	補強板接触面+50以上	さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる 摩擦接合としての性能が得られる処理 を施すこと	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
		高力ボルト接合面 処理確認	高力ボルト接合面 処理確認	0.4以上のすべり係数値を得られるよう処理 する 常温時(10~30℃)の締付けボルト軸力の平 均値 S10T M20-172KN~202KN M22-212KN~249KN M24-247KN~290KN 常温時以外(0°~10°、30°~60° C)の 締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-167KN~211KN M22-207KN~261KN M24-241KN~304KN	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等 付着物の除去 *5本/日の締付軸力試験 *X-R管理図作成	鋼道示H14.3 頁469 鋼道示 H14. 3 頁473-477 トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁2
鋼製橋脚隅角部補強工	高力ボルト接合工	トルク管理	トルク調整	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値) 変動係数 5% 出荷時	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値) 変動係数 5% 出荷時	鋼道示H14.3 頁204 鋼道路橋施工便覧 頁195
		高力六角ボルト	高力六角ボルト	施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける 時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を 回して締付ける方法でキャブレションを行なう	トルク法によって締付ける場合の締付け ボルト軸力は、設計軸力の10%増しを標 準とする (締付ボルト軸力 =設計ボルト軸力×1.1)	鋼道示H14.3 頁472 鋼道路橋施工便覧 頁196
鋼製橋脚隅角部補強工	支圧接合高力ボルト 締付軸力管理値(M22)	管理下 限値	管理上 限値	トルク管理をする際の 締付軸力管理値(KN) 締付けボルト軸力×0.8 205×0.8 = 164 締付けボルト軸力×1.1 205×1.1 = 226	基準となる計測機器が示す値の3%以内 の値、現場搬入時1回・3か月に1回の検 定試験	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁10 鋼道示 H14.3 頁475
		軸力計の検定	トルクレンチの検定	現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	鋼道示 H14.3 頁475
鋼製橋脚隅角部補強工	高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト	六角ボルト	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%	ナット、座金、母材にかけてのマーキン グの確認	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58. 4 頁16 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6

工種	測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
	測定項目				
高力ボルト接合工	ボルト締付後(トルシアボルト)			ピンテールの切断・マーキングの変動 トルク法 トルクレンチによる10%抜取り検査 回転角法 マーキングの変動	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58. 4 頁16 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
	ボルト締付後(高力六角ボルト)			製造ロット毎に塗料製造会社で行った品質試験結果を確認 設計数量 製造ロット毎に、塗料製造会社(充缶確認)の出荷証明書と現場搬入使用数量 塗料工事終了後の空缶数(空缶確認)の確認 たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない	
現場塗装工	塗料現場材料				鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
	塗装完了外観				
	塗膜厚		鋼橋塗装設計・施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上	
	補強板の端(こば)の板間			継手部周辺20mmにシーリング材を塗布すること	
鋼製橋脚隅角部補強工	あて板補強工				

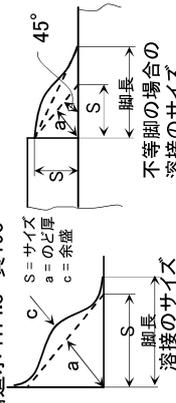
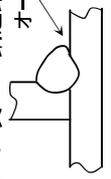
4 遮音壁設置工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
工種	測定項目			
支柱建込工 落下防止素工	建込位置の確認	支柱設置間隔 ±5	支柱間ごと	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
		設置高さ ±5	支柱ごと	
		鉛直度 H/500(外側方向)	橋脚部および支間中央部	
遮音板設置工	出来形規格値	設置延長 ±30	橋脚毎	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
		設置高さ ±5	橋脚部及び支間中央部	
		地覆より 250以上	建築限界の確認	
化粧板設置工	出来形規格値	設置延長 ±30	橋脚毎	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
		設置高さ ±5	橋脚部及び支間中央部	
遮音壁取付工				
遮音壁設置工事				

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
現地野書工	野書		外観目視による野書状況の確認 基準墨よりの野書位置の検測確認	
	鉄筋検査		鉄筋探査結果との整合性確認	
現場孔明工	孔明位置の確認		鉄筋探査後の孔明位置図を作成する 基準墨より孔明位置の検測確認 孔内の清掃状況の確認 孔径の検測確認	
支柱建込工	建込位置の確認		取付位置の確認 外観の目視確認	
吸音板・外装板取付工 および落下防止工	ボルト締付状況		締付完了時のマーキング、レンチによる 取付により締め忘れ及び共廻りの有無の 確認	
	落下防止ワイヤー取付		ワイヤークリップ締付方向確認	
遮音壁取付工				
遮音壁設置工事				

5 裏面吸音板設置工

工 種		測 定 対 象		規 格 値 (単位mm)	出 来 形 管 理 基 準	摘 要	
		測 定 項 目					
裏面吸音板設置工事		裏面吸音板取付工	吊支材、横梁、縦梁取付工	横梁設置高さ H	±15	主桁下フランジ上面から横梁上面までの高さの確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				縦梁設置間隔 Bv	±5	各縦梁間隔の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				横梁設置間隔 Bh	±5	各横梁間隔の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				縦梁設置長 Lv	±30	各縦梁設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				横梁設置長 Lh	±20	各横梁設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				橋脚との隙間 ℓ	±30	縦梁端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				設置長 L	±30	ルーバー(吸音板)設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				設置幅 W	±20	ルーバー(吸音板)設置幅の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
				橋脚との隙間 ℓ	±30	ルーバー(吸音板)端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
裏面吸音板取付工		化粧板取付工	設置長 L	±30	化粧板設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5	
			橋脚との隙間 ℓ	±30	化粧板端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5	

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
工種	測定項目			
素地調整工	ケレン範囲	部材取付周囲+100以上 (溶接熱影響範囲)		鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
	素地調整状況		さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる	
現場孔明工	摩擦接合のボルト孔径の許容差	1ボルト群の20%に対しては +1.0%まで認める	ボルト孔の貫通率および停止率を行う	鋼道路橋施工便覧 頁68
	外観目視	主要部材に働く一次応力に直行する ビード止端部 許容量0.3mm 主要部材に働く一次応力に平行する ビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量 0.8mm	われ、スラグ、スパッタがあつてはならない	
裏面吸音板取付工	アンダーカット			鋼道示 H14.3 頁 457 鋼道路橋施工便覧 頁 116 
	ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード高さ 25mmの範囲における高低差で表 し、3mmを超える凹凸があつては ならない		鋼道示 H14.3 頁457
	すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚	規定値以上	1 溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶 接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど 厚ともに-1.0mmの誤差を認める	鋼道示 H14.3 頁193 
	オーバーラップ		あつてはならない	鋼道示 H14.3 頁457 鋼道路橋施工便覧 頁 116 
裏面吸音板設置工事	浸透探傷試験		われがあつてはならない	

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
裏面吸音板設置工事	裏面吸音板取付工	高力ボルト接合面 処理確認	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	鋼道示H14.3 頁469	
		高力ボルト現場予備試験 (トルシア・ボルト)	<ul style="list-style-type: none"> ・5本/日の締付軸力試験 ・A-R管理図作成 	鋼道示 H14.3 頁473・477 トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁2	
	高力六角ボルト	吊支材、横梁・縦梁 取付工(高力ボルト)	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	鋼道示H14.3 頁204 鋼道路橋施工便覧 頁195	鋼道路橋施工便覧 頁196
		高力六角ボルト	変動係数 5% 出荷時		
	高力ボルト現場材料	軸力計の検定	施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	規格証明書、試験成績表と搬入材料との照合、及び数量の確認	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁16 鋼道示 H14.3 頁475
		トルクレンチの検定	現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	鋼道示 H14.3 頁475
	高力ボルト予備一次締め	継手の肌すき	トルシアボルト 60%	ナット・座金・母材にかけてのマーキングの確認	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁16 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
		ボルト締付後(トルシアボルト)	六角ボルト 60~80%	締付けにより密着させる	
	普通ボルト締付	ボルト締付後(高力六角ボルト)		ピンテールの切断・マーキングの変動	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁16 土木工事共通仕様書 第8章鋼構造物工 8.5.6
		普通ボルト締付		トルク法 回転角法 マーキングの変動	トルシア形高力ボルト施工管理要領 S58.4 頁16
			締付完了時のマーキング、レンチによる抜取りにより締め忘れ及び共廻りの有無の確認		

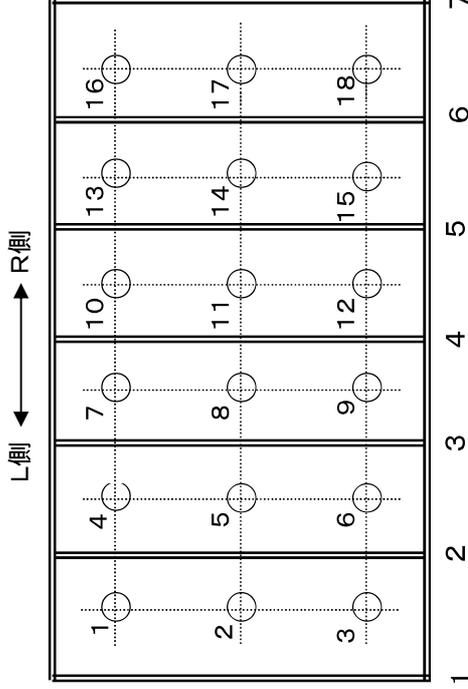
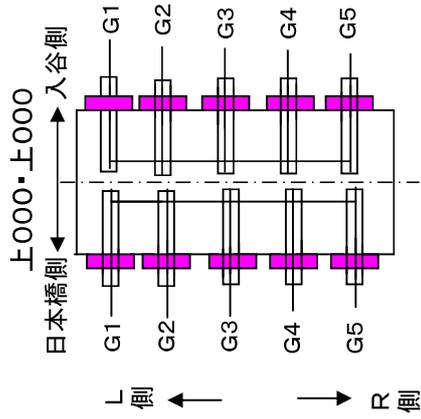
測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要
工種	測定項目			
現場塗装工	塗料現場材料		製造ロット毎に塗料製造会社で行った品質試験結果を確認 製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合	鋼橋塗装設計・施工要領 H14.6
	塗装完了外観		塗料工事終了後の空缶数量の確認 たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない	
	塗膜厚	鋼橋塗装設計・施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上	
落下防止素工	普通ボルト締付		締付完了時のマーキング、レンチによる抜取により締め忘れ及び共廻りの有無の確認	
	落下防止ワイヤー取付		ワイヤークリップ締付方向確認	
鳩害防止取付工	普通ボルト締付		締付完了時のマーキング、レンチによる抜取により締め忘れ及び共廻りの有無の確認	
	鳩害防止ワイヤー・ネット取付		ネット・ワイヤーの緩み、たるみがあつてはならない	
裏面吸音板設置工事				
裏面吸音板取付工				

参 考 资 料

§ 1. 天端拡幅ブラケット出来形管理表

1. ブラケット据付出来形管理表	1頁
2. ブラケット用アンカー孔 削孔径・削孔長管理表	2頁
3. ブラケット用アンカーボルト頭出し長管理表	3頁
4. ブラケット背面樹脂注入部叩き検査管理表	4頁
5. ブラケット背面隙間測定表	5頁

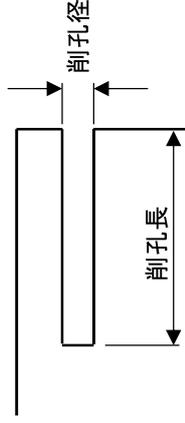
2. ブラケット用アンカー孔 削孔径・削孔長管理表



工 事 名:

請 負 社 名:

施 工 箇 所	上000・上000 起・終点G1～G5
社 内 検 査 日	平成00年00月00日
社 内 検 査 責 任 者	
検 査 補 助 者 名	



規格値 削孔長: 0～+50mm
削孔径: 設計値以上

1		2		3		4		5	
削孔径	削孔長								
設計値		設計値		設計値		設計値		設計値	
実測値		実測値		実測値		実測値		実測値	
誤差		誤差		誤差		誤差		誤差	
5		6		7		8		9	
削孔径		削孔径		削孔径		削孔径		削孔径	
設計値		設計値		設計値		設計値		設計値	
実測値		実測値		実測値		実測値		実測値	
誤差		誤差		誤差		誤差		誤差	
10		11		12		13		14	
削孔径		削孔径		削孔径		削孔径		削孔径	
設計値		設計値		設計値		設計値		設計値	
実測値		実測値		実測値		実測値		実測値	
誤差		誤差		誤差		誤差		誤差	
14		15		16		17		18	
削孔径		削孔径		削孔径		削孔径		削孔径	
設計値		設計値		設計値		設計値		設計値	
実測値		実測値		実測値		実測値		実測値	
誤差		誤差		誤差		誤差		誤差	

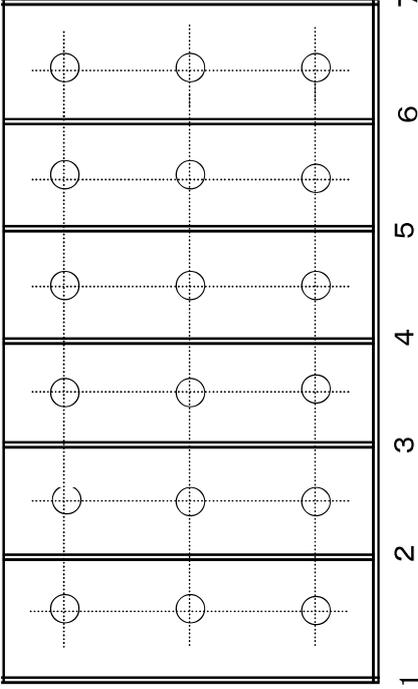
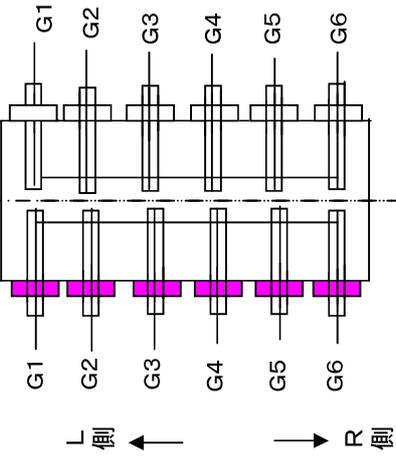
4. ブラケット背面樹脂注入部叩き検査管理表

工事名:

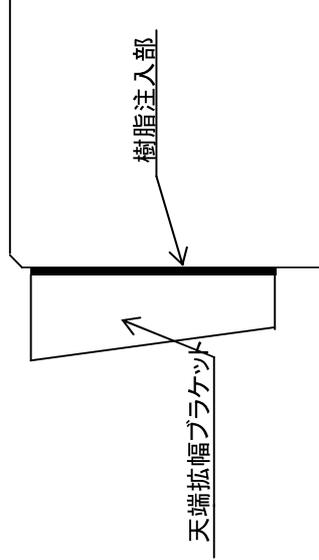
請負社名:

上000・上000

日本橋側 ← 入谷側



施工箇所	上000・上000 起点側G1~G6
社内検査日	平成00年00月00日
社内検査責任者	
検査補助者名	



POOO

箇所	測点							備考
	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7		
起点側G1	社内検査	良	否	良	否	良	否	
起点側G2	立会検査	良	否	良	否	良	否	
起点側G3	社内検査	良	否	良	否	良	否	
起点側G4	立会検査	良	否	良	否	良	否	
起点側G5	社内検査	良	否	良	否	良	否	
起点側G6	立会検査	良	否	良	否	良	否	

§ 2. 支承ベースプレート据付管理表

1. ベースプレート据付管理表

1頁

2. 新設アンカー孔 削孔径・削孔長管理表

2頁

3. 沓座ハツリ幅・深さ管理表

3頁

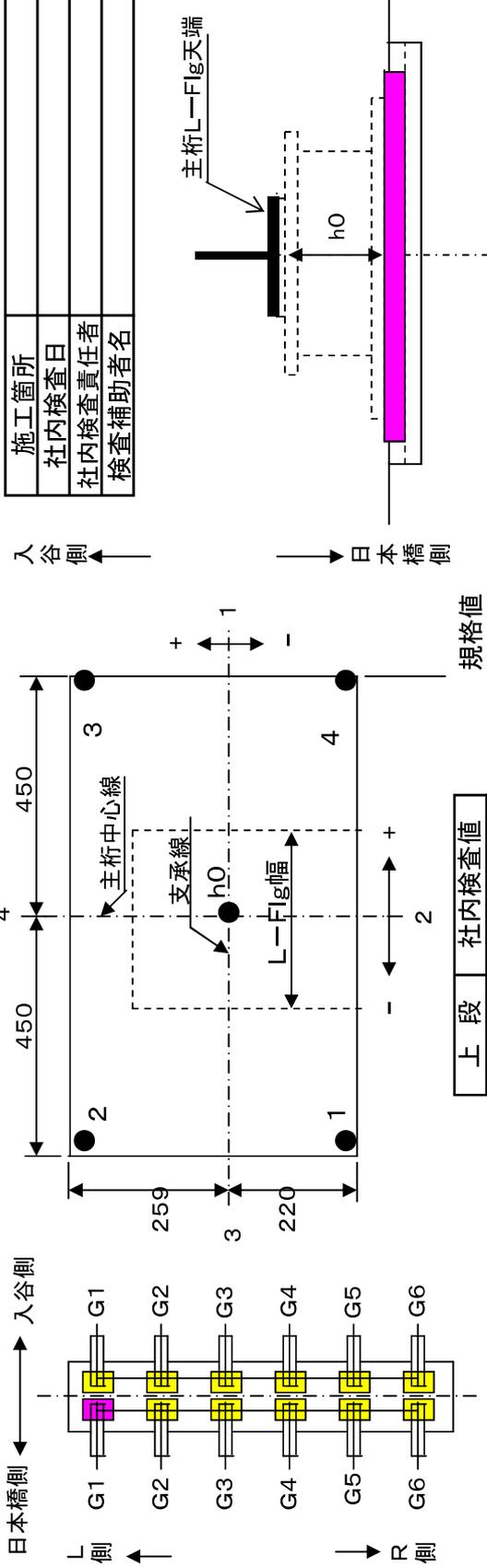
§ 2. 支承ベースプレート据付管理表

1. ベースプレート据付管理表

工 事 名 :

請 負 社 名 :

施工箇所	
社内検査日	
社内検査責任者	
検査補助者名	



起点側 ← POO → 終点側

* 芯ずれは、ベースプレートの方向を示す。

* hの設計値は桁アップ量3mm加算

* 水平度の±は、下がり方向を示す

測点 項目 箇所	芯ずれ										水平度										据付 可否	
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
上000	設計値	計測値	誤差																			
上000 据付高																						
上000	設計値	計測値	誤差																			
起点側 Gn	設計値	計測値	誤差																			

水平度 : 0.33%以下 高さ : ±5

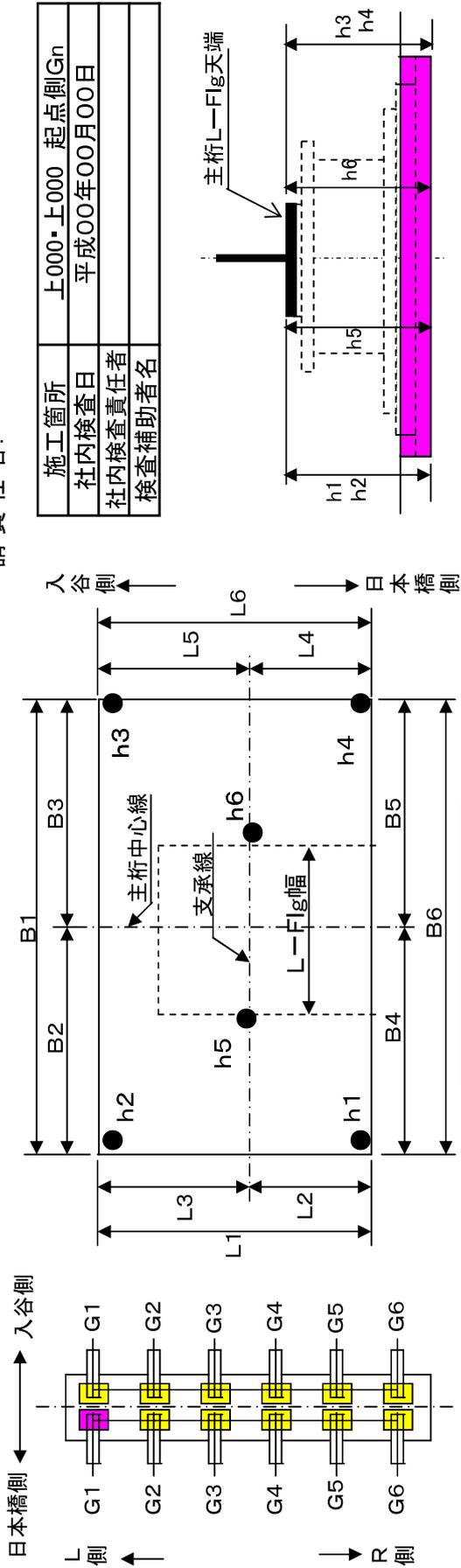
芯ずれ : ±15(管理値)

3. 宥座ハツリ幅・深さ管理表

工事名：

請負社名：

上000・上000



施工箇所	上000・上000 起点側Gn
社内検査日	平成00年00月00日
社内検査責任者	
検査補助者名	

上段	社内検査値
下段	立会検査値

* hの設計値は桁アツプ量3mm加算

測点 項目	L1		L2		L3		L4		L5		L6		B1		B2	
	設計値	計測値														
上000																
上000																
起点側 Gn																
形状・深さ 合格																

F: 査
ソ: 調
ベ: 計
モ: 計

§ 3. 支承擔付出来形図表

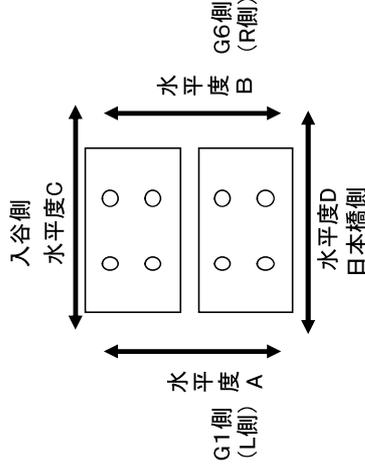
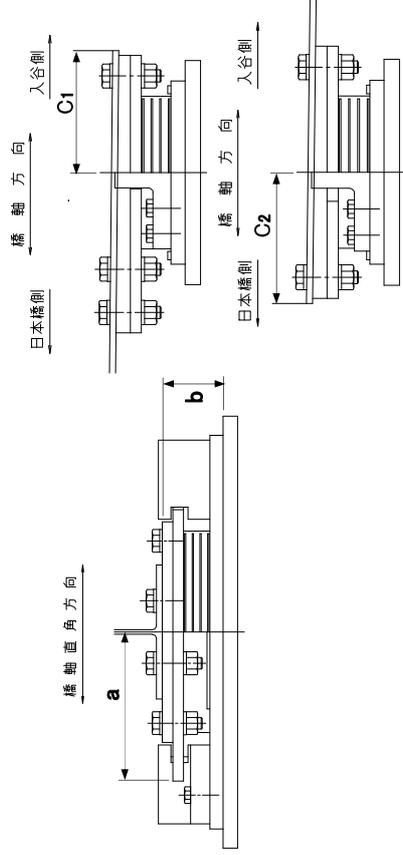
1. 沓据付出来形図表	1頁
1. 可動支承・遊間出来形管理図表	2頁
2. 支承相對誤差出来形管理図表	3頁
3. モルタル出来形記録表	4頁

§ 3. 支承据付出来形図表

1. 脊据付出来形図表

工事名：
請負社名：

施工箇所	上000・上000 起点側G1～G6
社内検査日	平成00年00月00日
社内検査責任者	
検査補助者名	

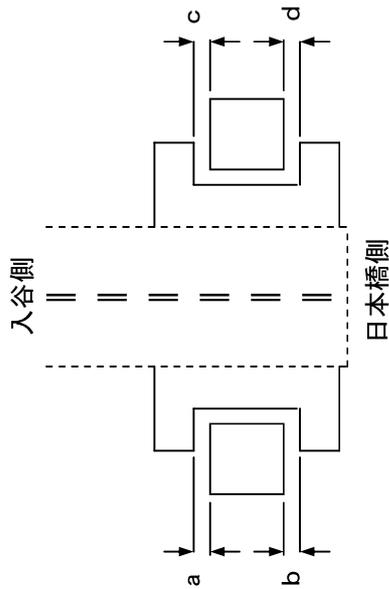


※ 水平度は、日本橋側下がりを含め、入谷側下がりを含めて示す。
※ 規格値 据付高さ(a) : ±5mm、桁端距離(C1,C2) : ±10mm
※ 規格値 支承中心間隔(b) : ±3mm、水平度A、水平度B、水平度C、水平度D : ±0.3%以下

桁番	G 1			G 2			G 3					
	日本橋側	入谷側	入谷側	日本橋側	入谷側	入谷側	日本橋側	入谷側	入谷側			
項目(単位mm)	設計値	実測値	誤差	立会値	設計値	実測値	誤差	立会値	設計値	実測値	誤差	立会値
起点L												
起点R												
終点L												
終点R												
据付高さ (b)												
桁端距離 (C1,C2)												
水平度A (%)												
水平度B (%)												
水平度C (%)												
水平度D (%)												
桁番	G 4			G 5			G 6					
項目(単位mm)	日本橋側	入谷側	入谷側	日本橋側	入谷側	入谷側	日本橋側	入谷側	入谷側			
設計値	実測値	誤差	立会値	設計値	実測値	誤差	立会値	設計値	実測値	誤差	立会値	
起点L												
起点R												
終点L												
終点R												
据付高さ (b)												
桁端距離 (C1,C2)												
水平度A (%)												
水平度B (%)												
水平度C (%)												
水平度D (%)												

2. 可動支承・遊間 出来形管理図表

工事名称 :
請負業者名 :



1°C当りの移動量

$$\begin{aligned} \Delta L &= 12 \times 10^{-6} \times L \times ^\circ\text{C} \\ &= 12 \times 10^{-6} \times L \times ^\circ\text{C} \times 000 \times 1 \\ &= 0.00 \text{ mm}/^\circ\text{C} \end{aligned}$$

温度差による移動量

温度差	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
伸縮量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

橋脚番号	上000・上000
対象部材	支 承
社内検査責任者	
検査補助者	
測定日(奇数データ時)	平成00年00月00日
天気・温度	
測定日(偶数データ時)	平成00年00月00日
天気・温度	
測定日(計測時)	平成00年00月00日
天気・温度	
測定日(立会時)	平成00年00月00日
天気・温度	

桁番号	測点	1支線上での最大誤差																		備考		
		G1	G2	G3	G4	G5	G6	a・cライン mm						b・dライン mm								
測定値	据付時	a	c																			※入谷側 : Mov ※日本橋側 : Fix 規格値 : a、cの絶対値 3mm 規格値 : b、dの絶対値 3mm
	計測時																					
	移動量																					
	立会時																					
測定値	測点	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	b	d	
	据付時																					
	計測時																					
	移動量																					
測定値	立会時																					

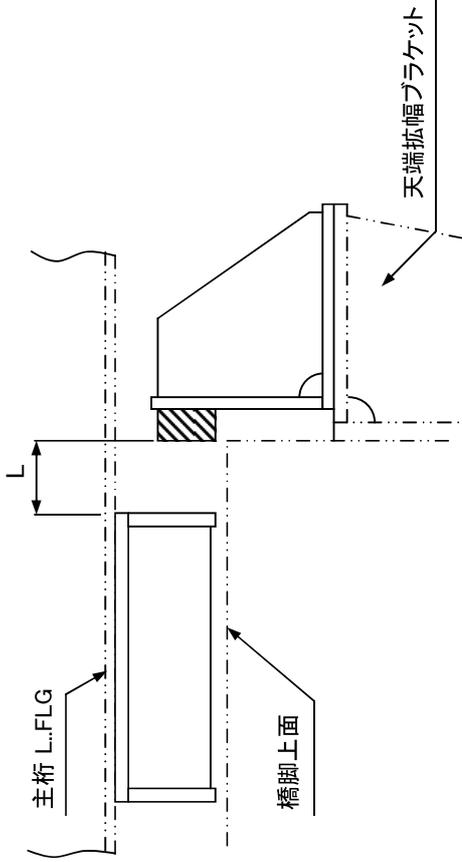
§ 4. 桁連結装置遊間出来形管理図表

1. 桁連結装置遊間出来形管理図表	1頁
2. PCケーブリング構造出来形管理図表	2頁
3. ブラケットタイプ出来形管理図表	3頁
4. メガネタイプ出来形管理図表	4頁
5. 横梁構造出来形管理図表	5頁

3. ブラケットタイプ出来形管理図表

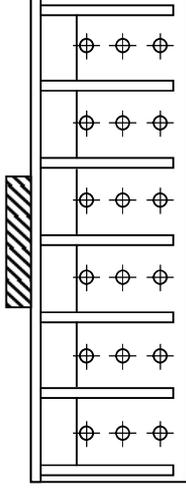
工事名称：
請負業者名：

側面図



橋脚番号	上000・000 (Pn)
対象部材	桁連結装置(ブラケットタイプ)
社内検査責任者	
検査補助者	
規格値	橋軸方向 ±5 mm

平面図
L側 ← → R側
※正面よりL・R



温度差による移動量

『起点側』

$$\begin{aligned} \triangle L &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \\ &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \times 000 \times 1 \\ &= 0.00 \text{ mm/°C} \end{aligned}$$

設計温度：20 °C、計測時温度：(計測月日)：
温度差 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
伸縮量 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0

気温： °C

『終点側』

$$\begin{aligned} \triangle L &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \\ &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \times 000 \times 1 \\ &= 0.00 \text{ mm/°C} \end{aligned}$$

設計温度：20 °C、計測時温度：(計測月日)：
温度差 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
伸縮量 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0

気温： °C

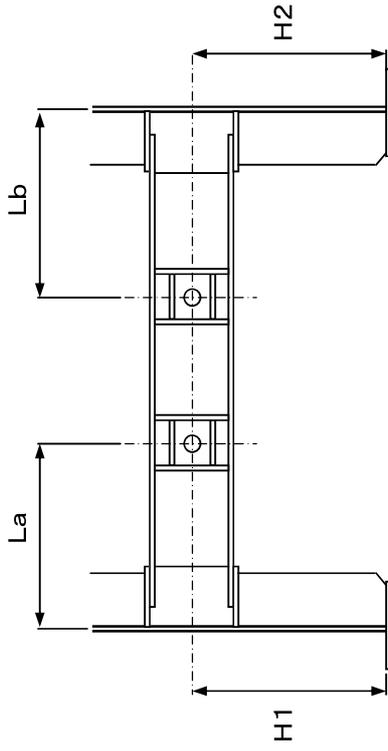
測点	G1		G2		G3		G4		G5		G6		備考	
	LL	LR												
桁番号 (起点側)													1支線上での最大誤差	
測定値													0 mm	※設計値は温度による移動量を換算
桁番号 (終点側)													1支線上での最大誤差	
測定値													0 mm	※設計値は温度による移動量を換算

5. 横梁構造出来形管理図表

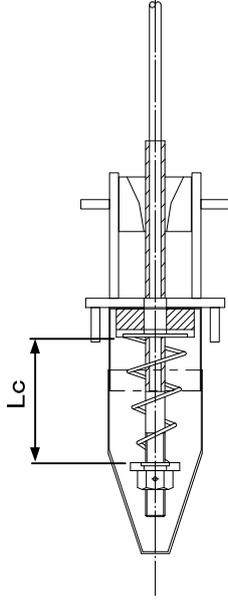
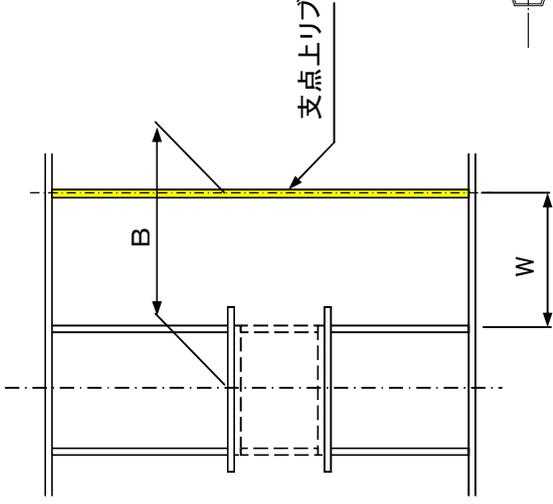
工事名称：

請負業者名：

側面図



正面図



『日本橋側』

$$L = 12 \times 10^{-6} \times L \times ^\circ C$$

$$= 12 \times 10^{-6} \times L \times ^\circ C \times 000 \times 1$$

$$= 0.00 \text{ mm}/^\circ C$$

温度差による移動量(設計温度:20°C)、スプリング長設置時温度：(計測月日) 気温： °C

温度差	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
伸縮量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※Lcの設計値は温度による移動量を換算

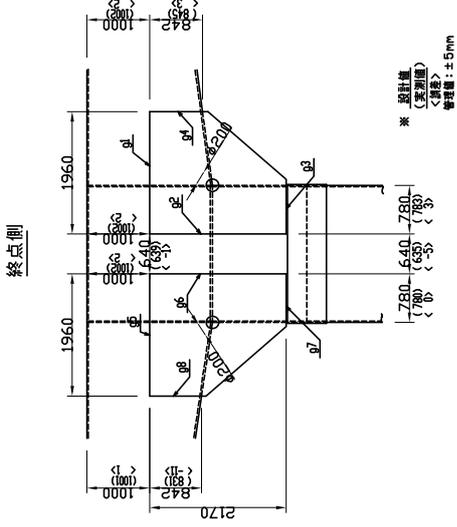
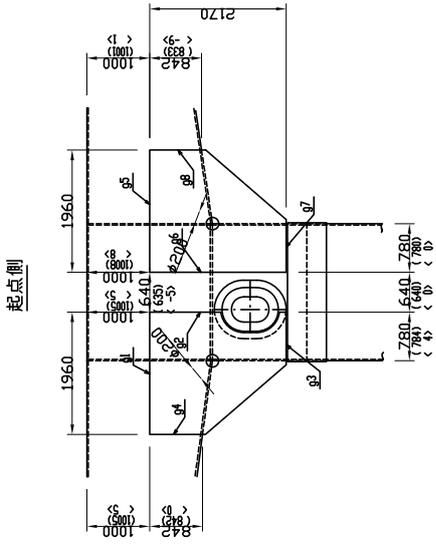
桁番号	G2~G3 間						G3~G4 間					
	La	Lb	H1	H2	B	Lc	La	Lb	H1	H2	B	Lc
測点					G2側	G3側					G3側	G4側
設計値												
実測値												
差												
立会値												
差												
桁番号	G4~G5 間						G5~G6 間					
	La	Lb	H1	H2	B	Lc	La	Lb	H1	H2	B	Lc
測点					G4側	G5側					G5側	G6側
設計値												
実測値												
差												
立会値												
差												

橋脚番号	上000・000 (Pn)
対象部材	桁連結(横梁構造)
社内検査責任者	
検査補助者	
管理値	横方向 ±5mm、高さ ±5mm

参 考 图

補強板取付出来形図

工事名
請負業者名
代表者名



※ 設計値
(<括弧内>)
<測定値>
管理値: ±5mm

あて板取付線(基点側)

		(単位: mm)							
測定位置		91	92	93	94	95	96	97	98
設計値									
実測値									
誤差									

管理値:

あて板取付線(終点側)

		(単位: mm)							
測定位置		91	92	93	94	95	96	97	98
設計値									
実測値									
誤差									

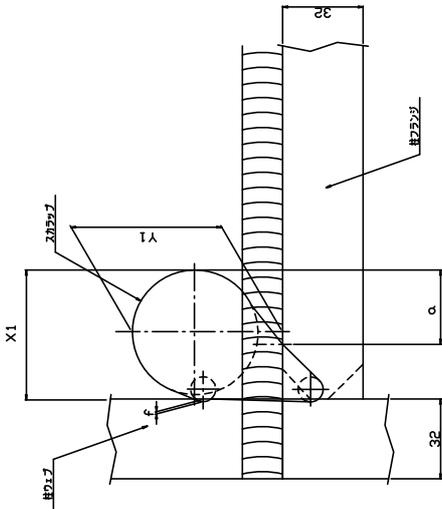
管理値:

履歴欄	
-----	--

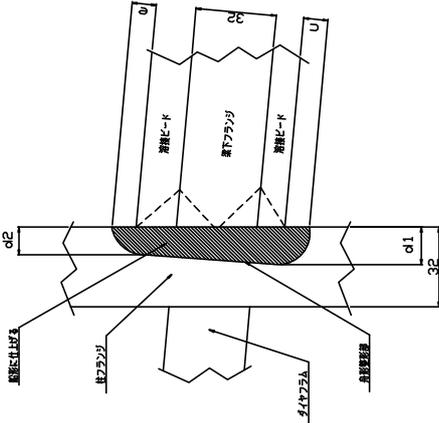
整理番号		図面番号	/
工事名		縮尺	/
図面名	補強板取付線図		
設計者	LCC設計部		
承認者	LCC設計部		
作成年月日	平成	年	月
承認年月日	平成	年	月
図面番号		図面名	
製図者		製図者	
製図日		製図日	
製図場所		製図場所	
製図機		製図機	
製図ソフト		製図ソフト	
製図機		製図機	
製図ソフト		製図ソフト	
建設現場 株式会社			

スカラップ出来形図

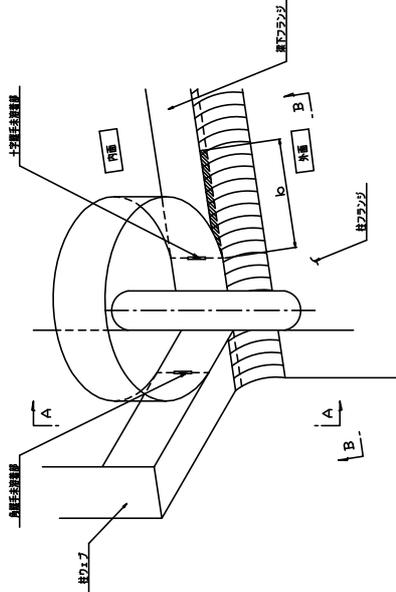
平面図(B-B)
(部下フランジ下部より見た)



舟形整形図(A-A)



スカラップ部測定箇所



工事名
請負業者名
代表者名

スカラップ出来形表

電線名	工号	項目	スカラップ系の内径	注部すりつけ長	上端部仕上長	舟形部すりつけ長	舟形部すりつけ長	舟形部すりつけ長	舟形部すりつけ長	舟形部すりつけ長	舟形部の電圧
三-001	終点側 (S-4)	測定箇所	X1	a	b	c	e	d1	d2	f	
		設計値									
		実測値									
		誤差									
		管理値									

※舟形部すりつけ長の値は、船体側(d1, d2)に對し、1-2mmと規定している。

整理番号	図面番号	/
工事名	縮尺	/
図面名	スカラップ部詳細	
設計者	工事員名	
承認年月日	承認年月日	年 月 日
設計者	工事員名	
承認者	工事員名	

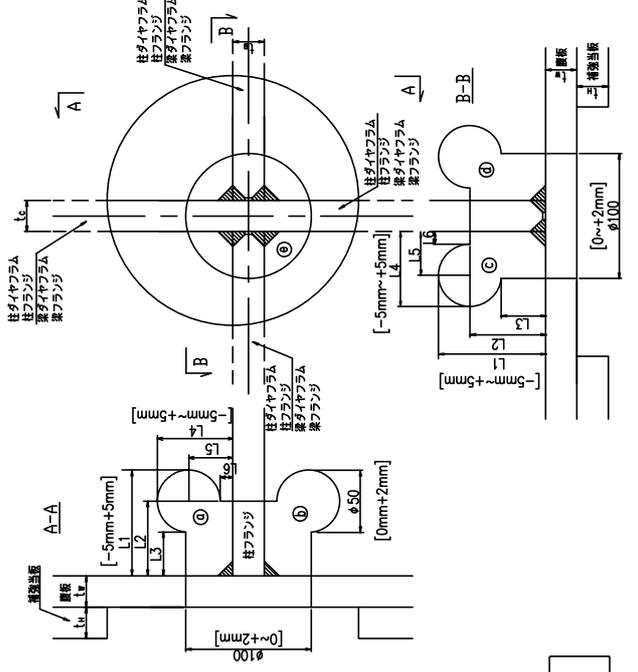
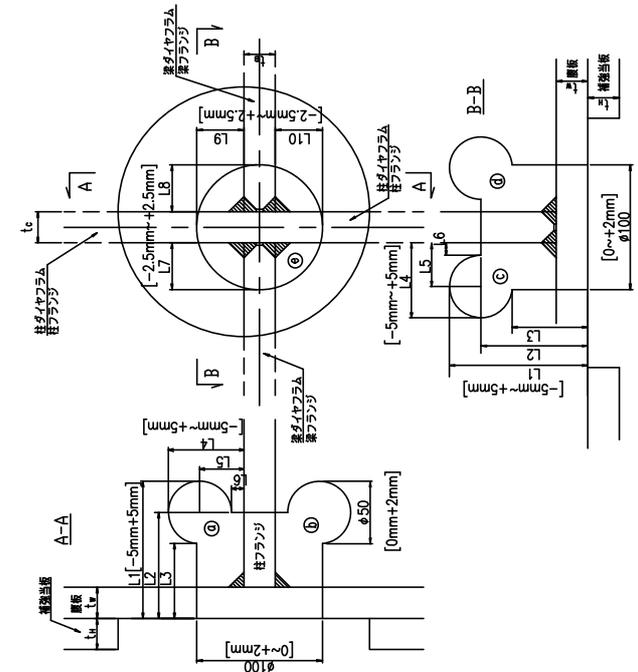
整理番号	図面番号	/
工事名	縮尺	/
図面名	スカラップ部詳細	
設計者	工事員名	
承認年月日	承認年月日	年 月 日
設計者	工事員名	
承認者	工事員名	

大コア抜き出来形図

工事名
請負者名
代表者名

外 面

内 面



t/c = mm
t/b = mm
t/w = mm

測定位置	設計値	実測値	誤差	管理値	立合値 (立合自注)	判定 : 合・否	備 考
(外面・内面)							
L1							
L2							
L3							
L4							
L5							
L6	$\phi 50$						
L7							
L8							
L9							
L10	$\phi 100$						
(注記)							

測定位置	設計値	実測値	誤差	管理値	立合値 (立合自注)	判定 : 合・否	備 考
(外面・内面)							
L1							
L2							
L3							
L4							
L5							
L6	$\phi 50$						
L7							
L8							
L9							
L10	$\phi 100$						
(注記)							

履歴欄	
-----	--

整理番号	図面番号	/
工事名	縮 尺	/
図面名	大コア抜き出来形図表	
設計者名	シロノブ	
承認年月日	年	月
承認者名	シロノブ	
図面作成者	シロノブ	
図面承認者	シロノブ	
シロノブ 株式会社		